

実務経験のある教員等による授業科目一覧【作業療法学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
基礎作業学Ⅰ	1	矢ヶ部華世子		
基礎作業学Ⅱ	2	矢ヶ部華世子	堀川和馬	
作業療法理論	1	矢ヶ部華世子	都甲幹太	
作業療法研究法	1	檀拓真		
作業療法管理学	2	峯崎佳世子		
基礎評価学Ⅰ（総論、関節可動域測定）	2	堀川和馬		
基礎評価学Ⅱ（感覚検査、筋力検査）	2	峯崎佳世子	杉本互	
基礎評価学Ⅲ（神経学的検査）	1	笠木理江		
基礎評価学Ⅳ（画像診断ほか）	1	笠木理江		
基礎評価技術演習	2	出水一美 杉本互	堀川和馬	川原潤基
日常生活活動学Ⅰ	1	峯崎佳世子		
日常生活活動学Ⅱ	1	峯崎佳世子		
義肢学	1	檀拓真		
装具学	1	檀拓真		
中枢神経疾患の作業療法治療学Ⅰ	2	堀川和馬		
中枢神経疾患の作業療法治療学Ⅱ	1	堀川和馬		
運動器疾患の作業療法治療学	2	檀拓真	野口秀	
内部障害の作業療法治療学Ⅰ	1	杉本互		
内部障害の作業療法治療学Ⅱ	1	杉本互		
精神障害の作業療法治療学Ⅰ	2	矢ヶ部華世子		
精神障害の作業療法治療学Ⅱ	2	矢ヶ部華世子	川原潤基	
高次脳機能障害の作業療法治療学	1	笠木理江		
老年期の作業療法治療学	1	出水一美		
小児疾患の作業療法治療学	1	濱本孝弘		
臨床課題演習Ⅰ（身体障害分野）	2	堀川和馬		
臨床課題演習Ⅱ（精神障害分野）	1	矢ヶ部華世子		
作業療法総合演習Ⅲ（作業療法専門）	2	峯崎佳世子 川原潤基	堀川和馬 出水一美	矢ヶ部華世子 杉本互
地域作業療法学Ⅰ	2	川原潤基		
地域作業療法学Ⅱ（福祉用具学を含む）	2	杉本互		
見学臨床実習Ⅰ	2	出水一美		
見学臨床実習Ⅱ	1	出水一美		
基礎臨床実習	4	出水一美		
総合臨床実習	18	出水一美		
合 計	67			

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
	○			OT学科							
授業科目名	リハビリテーション心理学				担当者名	川原 潤基					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	本講義では、患者の心理を理解するために必要な心理学における物の見方を知ること、人間に共通している一般的な心の働きについて学ぶことを目的とする。										
成績評価	課題、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	川原 潤基 (実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハベーシック心理学・臨床心理学	内山 靖、藤井 浩美、立石 雅子	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション、学問としての心理学、医療と心理学の関係
2	性格の構造（フロイトの理論、ユングの理論）
3	性格の構造（自己認知と他者認知）
4	心の発達（エリクソンのライフサイクル論、フロイトの発達段階理論）
5	心の発達（ピアジェの認知発達理論）
6	心の働き（知覚について）
7	心の働き（記憶について）
8	心の働き（学習について）
9	知能（知能とは）
10	知能（知能検査法）
11	心の揺らぎ、適応と不適応
12	ストレスと心の健康（ストレスの対処行動）
13	ストレスと心の健康（ストレスと疾患）
14	心理検査法について
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
	○										
授業科目名	情報処理演習			担当者名	杉本 亙						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	基礎的な文章作成や表計算、プレゼンテーションで求められるパーソナルコンピュータの知識及び技術の獲得を目的とする。										
成績評価	課題提出・発表などを総合的に判断し評価する。										
その他	杉本 亙 (実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	適宜プリント配布		
参考図書	適宜プリント配布		

回数	授業計画
1	オリエンテーション、概論：情報リテラシー、セキュリティ、モラルについて理解し、コンピュータやソフトウェアの種類を知る。
2	Word：ページ設定や文章入力を行い、課題を作成することができる。
3	Word：文章作成 文章設定の変更や表作成を行い、課題を作成することができる。
4	Word：図形とイラストの挿入 図形やイラスト、ワードアートを活用し、課題を作成することができる。
5	Word：応用（今まで学習してきたことを活用し、レポートを作成することができる。）
6	Excel：基本的な使用方法、数式・関数を使った表作成① 基本的な使用方法を理解、数式を使用し課題を作成することができる。
7	Excel：数式・関数を使った表作成② 様々な数式、関数を使用し課題を作成することができる。
8	Excel：統計処理について理解し、代表値を算出することができる。
9	Excel：グラフ作成とデータの活用 グラフの作成することができ、学んできた知識を利用しデータを活用することができる。
10	Powerpoint：基本操作を学び、スライド資料を作成することができる。
11	Powerpoint：基本操作を学び、スライド資料を作成することができる。
12	Powerpoint：スライド資料のデザインと視覚効果を利用し、編集・構成することができる。
13	Powerpoint：スライド資料のデザインと視覚効果を利用し、編集・構成することができる。
14	スライド発表：Powerpointを使用し、プレゼンテーションを実施、また質疑応答を行うことができる。
15	スライド発表：Powerpointを使用し、プレゼンテーションを実施、また質疑応答を行うことができる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
	○			授業者名		得本 啓次					
授業科目名	保健体育理論 I			担当者名		得本 啓次					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	<p>健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要な不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。</p> <p>本講義では、生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す。</p>										
成績評価	レポート30%、試験70%にて総合的に評価する。										
その他	得本 啓次（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本	公益財団法人 日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園

回数	授業計画
1	生涯スポーツ 生涯スポーツ概論
2	トレーニング法 イメージトレーニングの基礎知識とマインドセット
3	トレーニング法 イメージ結合法の理解と実践
4	トレーニング法 決意表明、発表、目標設定
5	スポーツ心理学 カウンセリング、人間の心身発達理論
6	スポーツ心理学 コミュニケーションスキル種類を理解し、方法論を学び指導に繋げる
7	スポーツマネジメント チームマネジメント、マーケティング戦略を理解し健康社会の貢献
8	解剖生理学 解剖学、生理学の概要、骨の組織構造
9	解剖生理学 筋肉の構造とはたらき、筋収縮のメカニズム
10	解剖生理学/運動指導 子どもの身体の特徴と子どもの運動指導
11	解剖生理学/運動指導 高齢者の身体の特徴と高齢者の運動指導
12	健康科学 日常生活での運動の重要性や姿勢の大切さ
13	生涯スポーツ 日常生活で取り組める運動を学び実践
14	関連法規 生涯スポーツトレーナーに関わる法律や関連する法律
15	総括 まとめと試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
	○			授業者名		得本 啓次			
授業科目名	保健体育理論Ⅱ			1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
授業概要	<p>健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。</p> <p>生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得を目指す。</p>								
成績評価	レポート30%、試験70%にて総合的に評価する。								
その他	得本 啓次（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本 車いす フィットネストレーナー教本 ティーボールティーチャー指導教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集 公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集 吉村 正	学校法人 国際学園 学校法人 国際学園 体育教育出版社

回数	授業計画
1	スポーツ心理学 ガイダンス、より良い人間関係を築くための心理学
2	障がいスポーツ 障がいスポーツの歴史、車いすの種類と仕組み
3	障がいスポーツ 障がい者のトレーニング適応と実技指導
4	障がいスポーツ 車いすの試乗、バリアフリーを考察
5	栄養学 スポーツ栄養学三大栄養素と五大栄養素
6	運動指導 ティーボール 概論, 必要性, 魅力
7	運動指導 ティーボール ルール, 審判方法, 運営方法, 指導法
8	運動指導 ティーボール 捕る投げる打つの基礎動作
9	運動指導 ティーボール 試合形式練習と試合運営
10	スポーツ医学 筋膜リリースと疲労回復
11	スポーツ医学 筋膜リリースのセルフマッサージ
12	指導法 トレーニング指導法理論、トレーニング方法の理解
13	指導法 トレーニング指導法実施、グループワーク
14	コンディショニング 基礎理論, アライメントチェック
15	コンディショニング コンディショニング体操

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
	○			OT学科							
授業科目名	ボディケア理論				担当者名	蓑田 のり子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	心身共に健康を維持増進することを目的とする。実技が中心の講義で、手・足・耳・顔・頭の反射ゾーンやツボを指で刺激し、身体の各部へ反射投影させることで心身のバランスを整え、人間本来が持つ「自然治癒力」を引き出し高める技術と知識を習得する。実技は、骨格などの性差を知るために男女混合で実施する。										
成績評価	出席状況・講義への参加意欲・期末試験を総合的に判断する。										
その他	蓑田 のり子（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	バランス整体療法	ナショナル整体学院 事務局	
参考図書	ボディ・ナビゲーション	Andrew Biel、監訳:阪本桂造	医道の日本社

回数	授業計画
1	オリエンテーション 準備・片付け、消毒等の衛生面、身だしなみの説明、禁忌事項、バランス全体の効果・ハートビーイング
2	<実技> 挨拶の仕方について、腹臥位①: 立ち位置、タオルの掛け方、軽擦法
3	<実技> 腹臥位②: 背部・腰部伸張法、脊柱のライン圧迫、背部圧迫法（手根圧・母指圧）
4	<実技> 腹臥位③: 腰部母指圧、臀部手根圧
5	姿勢分析: 評価ポイントの名称、見かた、記入方法、 動診: 評価の見かた、記入方法
6	<実技> 復習①: 挨拶～臀部手根圧まで時間計測 15分
7	<実技> 腹臥位④: 下肢手根圧（大腿・下腿）、足底母指圧、上背部（肩甲骨周囲・起立筋・肩部）母指圧、 上肢（肩関節周囲・上腕・前腕）手根圧
8	腹臥位から仰臥位になる際の注意事項 <実技> 仰臥位①: 下肢手根圧（大腿）手掌押圧、下腿母指圧
9	<実技> 仰臥位②: 上肢（肩関節周囲・上腕・前腕）手根圧、手部の母指圧・指抜き、頸部3ライン揉捻法
10	仰臥位から座位になる際の注意事項 <実技> 座位①: 骨盤を立てる、肩周囲の押圧、軽擦
11	整体院現場見学実習
12	整体院現場見学実習
13	<実技> 復習④: 挨拶～座位軽擦・挨拶まで時間計測 30分
14	<実技> 復習⑤: 挨拶～座位軽擦・挨拶まで時間計測 30分
15	実技確認試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
	○			OT学科							
授業科目名	医療コミュニケーション学			担当者名	峯崎 佳世子						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	本講義では、作業療法士として対象者の心身の健康の向上に貢献できる人間性の育成を目的とする。作業療法士として豊かな人間性と真摯な姿勢を養うために、自己や他者を理解すること、対象者及び他職種に必要なコミュニケーション能力を身につける。										
成績評価	課題提出、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	峯崎 佳世子 (実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	山口 美和	医学書院
参考図書	コミュニケーション論、他職種連携論	内山 靖、藤井 浩美、立石 雅子	医歯薬出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション、医療コミュニケーション学を学ぶにあたり、作業療法士への動機や目指す作業療法士像を確認する。
2	医療者になる為の準備として、自己を理解する。
3	接遇の基本となる第一印象の重要性を知り、適切な身だしなみや表情などを理解する。
4	態度、動作、五感の活用、感情の表現などのノンバーバルコミュニケーションを理解する。
5	言語コミュニケーションの要素や適切な言葉遣いなどのバーバルコミュニケーションを理解する。
6	コミュニケーションの基本的な考え方（目的や本質、構成要素など）や必要とされる能力（傾聴力、人間関係を発展させる能力など）、手法（質問、うなずき・相づちなど）を理解する。
7	習得したコミュニケーション能力を生かし、生活行為の聞き取る力を身につける。
8	遅刻・早退・欠席をしたときの対処法、報告・連絡・相談の必要性や方法などを身につける。
9	挨拶や電話対応などのコミュニケーション能力を身につける。
10	実習後のお礼状作成などの文書マナーを身につける。
11	オリエンテーション（高齢者施設見学の概要、実習の流れ、課題レポートについて理解する）
12	高齢者施設での見学実習の中で、授業で学んだ接遇やコミュニケーションを活かし実践する。
13	高齢者施設での見学実習の中で、授業で学んだ接遇やコミュニケーションを活かし実践する。
14	高齢者施設での見学実習の体験を共有し、コミュニケーション技能について振り返る。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
	○			担当者名		出水 一美					
授業科目名	リハビリテーション英語					1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	1				授業時間数		15				
授業概要	リハビリテーションの現場で使われる専門用語や骨や筋の英語を理解し覚えることを目的とする。										
成績評価	課題提出（40%）、期末試験（60%）にて総合的に評価する。										
その他	出水 一美 （実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	「骨単」「肉単」「キューとホスピタリティの英語Ⅰ」	原島広至 著, 古閑博美・野口陽子 著	エヌ・ティー・エス, 弓プレス

回数	授業計画
1	リハビリテーション英語概要について説明し、人体の主要な骨を日本語に訳す。 療法士の名称を英語で書ける。
2	上肢（頭部、肩甲骨、肩、肘、前腕、手部、手指）の骨を英語から日本語に訳す。（1）
3	上肢（頭部、肩甲骨、肩、肘、前腕、手部、手指）の骨を英語から日本語に訳す。（2）
4	頭部、体幹、骨盤の骨を英語から日本語を訳す。
5	下肢（大腿、膝、下腿、足部、足趾）の骨を英語から日本語に訳す。
6	主要な筋を英語から日本語に訳す（1）
7	主要な筋を英語から日本語に訳す（2）
8	症状別単語、運動方向を英語から日本語に訳す。



科目区分	基礎分野 ○	専門基礎分野	専門分野								
授業科目名	文章読解と文章作成				担当者名	矢ヶ部 華世子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						15					
授業概要	文章の基本となる文章構成について理解し、文章読解力と文章作成力を身につける。 また、文章だけでなく敬語表現についても理解し身につける。										
成績評価	授業の取り組み、課題提出状況、小テスト、課題内容など総合的に評価する。										
その他	矢ヶ部 華世子（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 表現力、語彙力を確認する。
2	文章を書き写す。 助詞の使い方を理解する。
3	漢字と対義語、類義語を理解する。 表現法（句読点、現代仮名遣い、送り仮名）を理解する。
4	自己紹介文を作成する。
5	自己紹介文の添削をする。 話し言葉と書き言葉、専門語と日常語を理解する。
6	敬語表現を理解する。
7	文章作成のために課題の趣旨をつかむ、要約の仕方、意見を決めるなどを理解する。
8	課題文を作成する。

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野				
				○					
授業科目名	解剖生理学 I (総論)					担当者名		峯崎 佳世子	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						15			
授業概要	解剖学、生理学を学ぶ上で基本的な概念について理解する。								
成績評価	課題、期末試験など総合的に判断し評価する。								
その他	峯崎 佳世子 (実務経験なし)								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 解剖生理学 人体の構造と機能①	野村巖 編 坂井建雄、岡田隆夫	医学書院 医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 解剖学総論、生理学総論
2	人体の構造と区分
3	骨の名称、面と軸
4	脳の構造と機能
5	脊髄の構造と機能
6	人体の腹所と内臓器官の全体構造
7	人体の発生
8	補足とまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○									
授業科目名	解剖生理学Ⅱ（運動器系）					担当者名		出水 一美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	解剖学は正常な人体の形態と構造を研究する学問であり、各種疾患の病態、症状、治療法を理解するうえで必須の基礎科目である。解剖生理学Ⅱは動物系（運動器）全般に関わる、骨・関節・靭帯・筋系を中心に授業を進め、各名称やその役割について学習する。											
成績評価	課題、小テスト、期末試験など総合的に判断し評価する。											
その他	出水 一美（実務経験なし）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 解剖生理学 人体の構造と機能①	野村巖 編 坂井建雄、岡田隆夫	医学書院 医学書院
参考図書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版	坂井建雄・監訳	医学書院

回数	授業計画
1	オリエンテーション 細胞（核、細胞小器官と細胞骨格）の構造と働きを理解する。
2	細胞を構成する物質とエネルギーの生成について理解する。
3	体液とホメオスタシス、細胞膜の構造と機能を理解する。
4	膜電位と細胞膜の興奮について理解する。
5	細胞が作る組織（上皮組織・筋組織・結合組織）について理解する。
6	骨学総論：骨の血管と神経、骨の発生、骨のリモデリングを理解する。
7	骨学総論：骨の形態、骨の構造、全身の骨の名称を理解する。
8	上肢帯と自由上肢の骨格の名称と構造を理解する。
9	下肢帯と骨盤の骨格の名称と構造を理解する。
10	自由下肢骨の骨格の名称と構造を理解する。
11	体幹、頭部の骨格の名称と構造を理解する。
12	関節靭帯総論：骨の連結、関節の構造と機能を理解する。
13	関節の自由度と軸性について理解し、分類できる。
14	全身の主要な靭帯を理解する。
15	筋学総論：骨格筋の構造、収縮機構を理解する。
16	骨格筋の形状と作用、収縮の種類と特性について理解する。

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
			○								
授業科目名	解剖生理学Ⅱ (運動器系)					担当者名	出水 一美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

回数	授 業 計 画
17	表情筋と咀嚼筋について理解する。
18	上肢帯の筋と支配神経を理解する。
19	自由上肢の筋と神経を理解する。(1)
20	自由上肢の筋と神経を理解する。(2)
21	自由上肢の筋と神経を理解する。(3)
22	下肢帯と骨盤の筋と神経を理解する。(1)
23	下肢帯と骨盤の筋と神経を理解する。(2)
24	自由下肢骨の筋と神経を理解する。(1)
25	自由下肢骨の筋と神経を理解する。(2)
26	自由下肢骨の筋と神経を理解する。(3)
27	体幹、頭部の筋と支配神経を理解する。(1)
28	体幹、頭部の筋と支配神経を理解する。(2)
29	体幹、頭部の筋と支配神経を理解する。(3)
30	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
		○									
授業科目名	解剖生理学Ⅲ（神経系）			担当者名	峯崎 佳世子、笠木 理江						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				
授業概要	作業療法を実践する上で、主要疾患の理解のために神経系・感覚器系に関する解剖生理学的知識を学ぶ。										
成績評価	課題や小テスト、期末試験にて総合的に判断し評価する。										
その他	峯崎 佳世子、笠木 理江（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 解剖生理学 人体の構造と機能①	野村 巖・編 坂井 建雄、岡田 隆夫	医学書院 医学書院
参考図書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版	坂井 建雄・監訳	医学書院

回数	授業計画
1	オリエンテーション 神経系総論：神経系の基本的な構成、機能について理解する。
2	神経系総論：神経系の基本的な構成、機能について理解する。
3	神経系総論：神経系の基本的な構成、機能について理解する。
4	末梢神経：脳神経について理解する。
5	末梢神経：脳神経について理解する。
6	末梢神経：自律神経系（交感神経、副交感神経）について理解する。
7	末梢神経：自律神経系（交感神経、副交感神経）について理解する。
8	末梢神経：脊髄神経（腕神経叢を中心に）について理解する。
9	末梢神経：脊髄神経（その他脊髄神経、神経叢）について理解する。
10	末梢神経：皮節（デルマトーム）について理解する。
11	感覚器系：表皮と真皮の基本構造と皮膚感覚器について理解する。
12	感覚器系：目の構造と視覚について理解する。
13	感覚器系：耳の構造と聴覚・平衡感覚について理解する。
14	感覚器系：味覚器・嗅覚器の構造と味覚・聴覚について理解する。
15	学習の習熟度に合わせ補足とまとめにて総合的に理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
		○									
授業科目名	解剖生理学Ⅲ (神経系)					担当者名		峯崎 佳世子、笠木 理江			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				

回数	授 業 計 画
16	中枢神経系：脊髄の全体、横断面の構成、機能について理解する。
17	中枢神経系：脳幹の基本的な構成について理解する。
18	中枢神経系：脳幹の基本的な機能について理解する。
19	中枢神経系：小脳の基本的な構成・機能について理解する。
20	中枢神経系：大脳半球の基本的な構成・機能について理解する。
21	中枢神経系：間脳の基本的な構成・機能について理解する。
22	中枢神経系：大脳基底核の基本的な構成・機能について理解する。
23	中枢神経系：大脳辺縁系の基本的な構成・機能について理解する。
24	中枢神経系：大脳皮質の機能局在について理解する。
25	中枢神経系：大脳皮質の機能局在について理解する。
26	中枢神経系：脳の高次機能について理解する。
27	中枢神経系：上行性の神経路（伝導路）について理解する。
28	中枢神経系：上行性の神経路（伝導路）について理解する。
29	中枢神経系：下行性の神経路（伝導路）について理解する。
30	学習の習熟度に合わせ補足とまとめにて総合的に理解する。

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	解剖生理学Ⅳ（内臓系）				担当者名	川原 潤基					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30	30				
授業概要	人体の植物系に関わる形態、構造と、生理学的機能を理解する。										
成績評価	小テスト、期末試験など総合的に判断し評価する。										
その他	川原 潤基（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 解剖生理学 人体の構造と機能① 病気がみえるvol.2循環器 病気がみえるvol.4呼吸器	野村 巖 編 坂井 建雄 著	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 腔所と腹膜について
2	消化器系；消化器系の構造、咽頭と食増の構造と機能
3	消化器系；胃の構造と機能、小腸の構造
4	消化器系；栄養素の消化と吸収
5	消化器系；大腸の構造と機能、排便反射
6	肝臓・膵臓・胆嚢の構造
7	肝臓・膵臓・胆嚢の機能
8	循環器系；血管の構造、大循環と小循環の違い
9	循環器系；心臓の位置、構造
10	循環器系；刺激伝導系と心電図
11	循環器系；動脈系の経路（代表的な動脈）
12	循環器系；静脈系の構造と経路（門脈系）
13	循環器系；リンパ系の構造と流れ、機能
14	循環器系；前負荷と後負荷、血圧について
15	循環器系；血圧の調節
16	血液の成分と血球の機能





科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
		○		担当人名		杉本 亙					
授業科目名	体表解剖学										
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	体表解剖・触察は各種疾患の病態や症状、人間の動作を理解するうえで、必須の知識・技術である。体表から触知できる骨や筋系に関して触知できるとともに、対象者への触れ方、医療人としての身だしなみなど基本的態度を身につける。										
成績評価	提出物、小テスト（筆記・実技）、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	杉本 亙（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	骨格筋の形と触察法 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・ 下肢	河上 敬 林 典雄	大峰閣 MEDICAL VIEW

回数	授業計画
1	オリエンテーション、体表解剖の意義・概要、触知の基礎、全身骨格の確認
2	体表から触知できる骨（上肢）の触知（肩甲骨、鎖骨）
3	体表から触知できる骨（上肢）の触知（上腕骨、前腕骨）
4	体表から触知できる骨（上肢）の触知（手部）
5	学習の習熟度に合わせ補足とまとめ
6	体表から触知できる骨（骨盤帯、下肢）の触知（骨盤、大腿骨）
7	体表から触知できる骨（下肢）の触知（下腿骨、足部）
8	体表から触知できる骨（体幹）の触知（胸郭、脊柱）
9	学習の習熟度に合わせ補足とまとめ
10	体表から触知できる上腕の筋の触知
11	体表から触知できる前腕の筋の触知
12	体表から触知できる手部の筋の触知
13	体表から触知できる大腿の筋の触知
14	体表から触知できる下腿、足部の筋の触知
15	学習の習熟度に合わせ補足とまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○									
授業科目名	運動学 I					担当者名		中林 紘二				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	解剖学・生理学・物理学（力学）の知識をもとに、「人間が運動できる仕組み」を構造や機能の面から学ぶ。 (1) 骨や筋の名称およびその役割を理解する (2) 関節の構造と機能を理解する (3) 生体力学からみた関節運動を理解する (4) 脊髄レベルの神経と筋の関連を理解する (5) 歩行ならびに姿勢制御の概要を理解する											
成績評価	期末試験、小テストなどを総合的に評価する。											
その他	中林 紘二（実務経験なし）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	筋骨格系のキネシオロジー	Donald A. Neumann	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	総論：(1) 身体運動学とは (2) 骨運動 (3) 骨と関節
2	(4) 身体の面と軸 (5) 骨および関節の確認
3	関節学総論：(1) 関節の構造と機能 (2) 関節と運動
4	骨格筋学総論：(1) 骨格筋の構造 (2) 筋収縮 (3) 筋活動のタイプ
5	(4) 神経と筋 (5) 骨格筋の特徴
6	(6) 運動単位と神経支配比 (7) サイズの原理
7	各論：(1) 肩甲帯から上腕の骨関節学
8	肩甲帯から上腕の筋と運動
9	(2) 前腕から手指の骨関節学
10	前腕から手指の筋と運動
11	上肢の触察実習
12	上肢の筋に関する国家試験問題対策
13	(3) 骨盤帯から大腿、下腿、足部の骨関節学
14	骨盤帯から大腿、下腿、足部の筋と運動
15	(4) 頸部および体幹の骨関節学
16	頸部および体幹の筋と運動 顔面の筋と運動

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
		○							
授業科目名	運動学 I				担当者名	中林 紘二			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						60			

回数	授 業 計 画
17	下肢および体幹の触察実習
18	下肢の筋に関する国家試験問題対策
19	まとめ（これまでに学習した内容の国家試験問題の確認および対策）
20	姿勢：（1）重心 （2）姿勢
21	（3）姿勢制御
22	運動の中枢神経機構：（1）随意運動と反射運動 （2）筋紡錘・腱器官 （3）伸張反射
23	（4）相反神経 （5）自己抑制
24	（6）緊張性姿勢反射 （7）立ち直り反射・反応
25	歩行：（1）歩行周期 （2）歩行時の重心移動
26	（3）歩行時の各関節角度 （4）歩行時の筋活動
27	生体力学の基礎：（1）変位・速度・加速度 （2）ベクトル・力の合成 （3）仕事とエネルギー
28	（4）運動の法則 （5）モーメント （6）てこ
29	運動学 I に関わる国家試験過去問題
30	運動学 I に関わる国家試験過去問題の解答・解説 運動学 I のまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
		○		授業者名		中林 紘二					
授業科目名	運動学Ⅱ					1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		60				
授業概要	前期の運動学を通して得た知識をもとに、四肢・体幹の運動学的特徴を理解する。 1. 各関節の構造と機能について説明ができる 2. 各関節の安定性と運動性について説明ができる										
成績評価	期末試験、小テストなどを総合的に評価する。										
その他	中林 紘二（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	筋骨格系のキネシオロジー	Donald A. Neumann	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	肩関節複合体：(1)基本概念 (2)機能的肢位 (3)肩の運動の定義と運動域
2	肩甲上腕機構：(1)肩甲上腕関節の構造 (2)腱板の安定化作用 (3)三角筋と棘上筋の共同作用
3	肩甲上腕機構：(4)肩の第2関節 (5)運動筋 (6)可動域
4	肩甲胸郭機構：(1)胸郭上を動く肩甲骨 (2)胸鎖関節 (3)肩鎖関節 (4)肩の2大機構による自動運動
5	肘関節：(1)基本概念 (2)腕尺関節 (3)腕橈関節 (4)関節包と靭帯 (5)関節の運動と可動域 (6)運動筋
6	前腕：(1)基本概念 (2)回内・回外機構の分析 (3)回内・回外機構の他動的要素 (4)回内・回外運動軸と運動筋
7	前腕：(1)日常生活活動における回内・回外 手関節：(1)基本概念 (2)関節形態と靭帯 (3)動きと筋
8	手指：(1)基本概念 (2)解剖学的名称 (3)関節形態と靭帯
9	手指：(4)運動の定義と可動域 (5)外来筋と内在筋の関係 (6)腱鞘 (7)屈筋機構と伸展機構の概略
10	手指：(8)伸展機構による指の伸展 (9)支靭帯による運動作用 (10)解放された指 (11)虫様筋 (12)爪の役割
11	脊柱：(1)基本概念 (2)椎骨の基本形態 (3)椎骨の部位別形態
12	脊柱：(4)脊椎の機能的単位 (5)椎間板-椎体複合体 (6)椎骨の誘導要素 (7)椎骨の制動要素
13	脊柱：(8)脊柱の運動筋と安定筋
14	脊柱：(9)脊柱の彎曲の成り立ち (10)脊柱の可動性
15	脊柱：(11)脊柱に加わる力 (12)脊柱管と椎間孔 (14)椎体の血管分布 (15)脊柱の退化
16	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
			○								
授業科目名	運動学Ⅱ					担当者名	中林 紘二				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数		60				

回数	授業計画
17	股関節: (1)基本概念 (2)関節形態と関節唇 (3)関節包と靭帯 (4)股関節の運動
18	股関節: (5)新生児の股関節 (6)姿勢・筋力・立位が股関節構造の発達に及ぼす影響
19	股関節: (7)成人の股関節の形態 (8)股関節の運動筋 (9)パウエルの理論
20	股関節: (10)Trendelenburg現象とDuchenne現象 (11)内反股と外反股 (12)股関節の退化
21	膝関節: (1)基本概念 (2)運動の定義と可動域 (3)軸回旋の測定 (4)側方動揺の測定 (5)引き出し運動 (6)膝の軸
22	膝関節: (7)大腿脛骨関節の形態 (8)転がりと滑り運動
23	膝関節: (9)屈伸運動時の顆部の動きと接点移動の違い
24	膝関節: (10)屈伸運動時の靭帯の緊張 (11)膝の自動回旋
25	膝関節: (12)半月板 (13)半月板の移動 (14)膝蓋大腿関節と伸展機構
26	膝関節: (15)膝の運動筋 (16)大腿四頭筋 (17)驚足筋 (18)関節腔
27	膝関節: (19)他動側方ならびに前後方向安定性 (20)伸展位での他動回旋安定性 (21)過伸展の制動 (22)内反・外反膝
28	足関節: (1)基本概念 (2)距腿関節の形態と靭帯 (3)足部の運動の定義
29	足関節: (4)運動筋 (5)安定化機構
30	足関節: (6)横方向の安定性 (7)前後方向の安定性 (8)回旋方向の安定性

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野								
		○									
授業科目名	人間発達学				担当者名	出水 一美					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				
授業概要	人間発達学は人を対象として、人が発達する存在である観点から理解する学問である。 子どもに限ったものではなく、誕生から成長、成熟を経て、最終的に死を迎える成人や高齢者にも当てはまるものである。ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解をすることは、ひとの生活を考える上で、重要である。										
成績評価	期末試験や課題にて総合的に評価する。										
その他	出水 一美（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	イラストでわかる発達障害の作業療法	上杉 雅之 監修	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 発達の原則、発達の重要性について理解する。
2	運動発達について理解する。 原始反射の概念・意義について理解する。
3	原始反射・姿勢反射・立ち直り反射の概念・意義、反射中枢、検査方法などについて理解する。
4	原始反射・姿勢反射・立ち直り反射の概念・意義、反射中枢、検査方法などについて理解する。
5	新生児の運動発達、言語・社会性、ADLの発達について理解する。
6	乳幼児期の運動発達、言語・社会性、ADLの発達について理解する。
7	乳幼児期の運動発達、言語・社会性、ADLの発達について理解する。
8	乳幼児期以降の発達について理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
		○		授業者名		峯崎 佳世子、檀 拓真			
授業科目名	リハビリテーション医学			1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	リハビリテーションに関わる主な疾患、症候、障害、治療について学ぶ。								
成績評価	期末試験、課題、授業の取り組みなど総合的に評価する。								
その他	峯崎 佳世子、檀 拓真（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション医学	安保雅博（監修）	羊土社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション リハビリテーション医学・医療の理念
2	病気の原因と日本における死因、予防医学
3	運動療法について（運動生理学の基礎）
4	運動療法、物理療法について
5	リスク管理、リハビリテーション治療の中止基準について 廃用症候群について
6	運動障害について 上位・下位運動ニューロン障害について
7	脳血管障害、頭部外傷について 水頭症、意識障害について
8	運動失調について
9	内部障害（呼吸器疾患）について
10	内部障害（循環器疾患）について
11	内部障害（代謝とその障害）、排泄障害について
12	感染と感染予防について
13	救命救急について（1）
14	救命救急について（2）
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
		○		OT学科							
授業科目名	基礎栄養学					担当者名	川原 潤基				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							15				
授業概要	<p>栄養とは、発育・増殖・活動のために体外から必要な物質を取り込み、生命の維持に不可欠な現象である。基礎栄養学では、栄養素とエネルギーに関わる消化と吸収、同化と異化に関わる代謝について理解し、活動・参加を保障するエネルギー供給と消費についての科学的基盤に基づく理解を深めていく。</p>										
成績評価	期末試験にて評価する。										
その他	川原 潤基（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハベーシック 生化学・栄養学	内山靖、藤井浩美、立石雅子 編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	栄養の概念、栄養学に必要な基礎知識について
2	たんぱく質・アミノ酸の分類と機能
3	ホルモンの分類と作用機序
4	糖質・脂質分類と代謝について
5	ビタミンの種類と機能
6	消化と吸収、栄養素の吸収過程
7	エネルギーの産生と消費、活動代謝について
8	スポーツと栄養、リハビリテーションと栄養の関連性について



九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野					
		○						
授業科目名	基礎薬理学				担当者名	高橋 浩二郎		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次
	単位数	1			授業時間数	前期	後期	前期
							15	
授業概要	薬物療法中の患者に対し作業療法を実施する際、薬物の影響などを考慮できるように、薬物治療の基礎知識（薬物動態、作用、副作用など）を理解する。 臨床で使用される疾患別治療薬の作用・副作用・投与時の注意点を理解する。							
成績評価	期末試験にて判断する。							
その他	高橋 浩二郎（実務経験なし）							

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	わかりやすい薬理学 第4版	安原一・小口勝司	ムーヴェルヒロカワ
参考図書	リハベーシック薬理学・臨床薬理学	内山靖・藤井浩美・立石雅子	医歯薬出版

回数	授業計画
1	薬理学の概念① 薬物の作用機序と体内動態について理解する。
2	薬理学の概念② 薬物の副作用と薬物療法について理解する。 医薬品の安全管理について理解する。
3	末梢神経系作用薬、中枢神経系作用薬について理解する。
4	心臓・血管作用薬について理解する。
5	抗炎症薬、呼吸器系作用薬について理解する。
6	脳血管障害患者に対する薬、その他の薬について理解する。
7	精神科で頻用される薬について理解する。
8	学習のまとめと補足

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野							
			○									
授業科目名	病理学概論					担当者名		杉本 互				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	各種「障がい」の発生原因に「疾患＝病気」があります。病気を知るためには、その成り立ちは原因・経過を理解する必要があります。そのために「病理学」としての基本事項を教授します。											
成績評価	課題や小テスト、期末試験にて総合的に判断し評価する。											
その他	杉本 互 (実務経験なし)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	カラーで学べる病理学 (第5版)	渡辺 照男	ムーヴェルヒロカワ
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション、病理学概論について理解する。
2	細胞・組織とその障害について理解する。
3	再生と修復について理解する。
4	循環障害について理解する。
5	炎症について理解する。
6	炎症について理解する。
7	免疫とアレルギーについて理解する。
8	免疫とアレルギーについて理解する。
9	膠原病について理解する。
10	感染症について理解する。
11	代謝異常について理解する。
12	先天異常について理解する。
13	腫瘍について理解する。
14	腫瘍について理解する。
15	学習の習熟度に合わせ補足とまとめにて総合的に理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
		○		担当者名		杉本 亙					
授業科目名	内科学										
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	リハビリテーションの対象者に多い内科疾患について疫学や予後、病因や症状、検査、治療などについて理解する。										
成績評価	課題や小テスト、期末試験にて総合的に判断し評価する。										
その他	杉本 亙 (実務経験なし)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版	前田真治 他	医学書院
参考図書	病気がみえるVol.4 呼吸器 第3版 病気がみえるVol.2 循環器 第5版	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA

回数	授業計画
1	オリエンテーション 循環器疾患（心臓血管の解剖生理を復習）
2	循環器疾患（虚血性心疾患の概念、病理、症状、臨床所見について理解する）
3	循環器疾患（心不全の概念、病理、症状、臨床所見について理解する）
4	循環器疾患（その他主要な疾患の概念、病理、症状、臨床所見について理解する）
5	呼吸器疾患（呼吸器系の解剖生理を復習）
6	呼吸器疾患（換気障害；閉塞性・拘束性換気障害の概念、病理、症状、臨床所見について理解する）
7	呼吸器疾患（感染性肺疾患、その他疾患、異常呼吸の概念、病理、症状、臨床所見について理解する）
8	消化管疾患（疾患の概要、病態、症状、合併症、臨床所見、治療について理解する）
9	肝胆膵疾患（疾患の概要、病態、症状、合併症、臨床所見、治療について理解する）
10	血液・造血器系疾患（疾患の概要、病態、症状、合併症、臨床所見、治療について理解する）
11	代謝系疾患（疾患の概要、病態、症状、合併症、臨床所見、治療について理解する）
12	内分泌疾患（疾患の概要、病態、症状、合併症、臨床所見、治療について理解する）
13	腎・泌尿器系疾患（疾患の概要、病態、症状、合併症、臨床所見、治療について理解する）
14	アレルギー疾患、免疫不全症、感染症（疾患の概要、病態、症状、合併症、臨床所見、治療について理解する）
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○									
授業科目名	整形外科学					担当者名		峯崎 佳世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	整形外科に特有の疾患を理解し、疾患の特徴をとらえる事を目的として行う。 解剖学的知識なくしては整形外科学は理解できないため、必要に応じて解剖の復習をしながら授業を進める。整形外科疾患に対する知識、理解を得ることで、評価、治療との関連を深めることを目的とする。											
成績評価	期末試験にて評価する。											
その他	峯崎 佳世子 (実務経験なし)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	病気がみえるvol.11 運動器・整形外科学	岡庭 豊	MEDIC MEDIA
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 整形外科総論(検査、保存・手術療法、合併症、RICE処置)
2	外傷総論(捻挫と脱臼の違いを理解する) 骨折総論(骨折の種類、症状、合併症、診断、治療法について理解する)
3	上肢の骨折(代表的な骨折とその特徴について理解する) (小児骨折を含む)
4	下肢・体幹の骨折(代表的な骨折とその特徴について理解する) (小児骨折を含む)
5	末梢神経損傷①(末梢神経について理解する。末梢神経損傷の分類、特徴、病態、合併症について理解する)
6	末梢神経損傷②(診断、治療法、治癒過程について理解する)
7	脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊椎分離症)、画像の診かた
8	脊髄損傷①
9	脊髄損傷②
10	炎症性疾患(関節リウマチの概要、症状、診断、治療について理解する) (関節リウマチ類似疾患について理解する)
11	慢性関節疾患(変形性関節症の概要、症状、診断、治療について理解する)
12	代謝性骨疾患(骨粗鬆症、くる病、骨軟化症)
13	熱傷
14	先天性骨関節疾患
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
		○									
授業科目名	神経内科学					担当者名	善明 勇二				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	各疾患の疫学及び予後、病因、症状、検査、治療について理解する。										
成績評価	課題提出、期末試験など総合的に評価する。										
その他	善明 勇二（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学第5版	川平和美 編	医学書院
参考図書	病気がみえるvol.7 脳・神経(第2版)		MEDIC MEDIA

回数	授業計画
1	オリエンテーション 神経学的検査と臨床検査；画像診断、脳脊髄液検査の基礎について
2	神経学的検査と臨床検査；画像診断、脳脊髄液検査の基礎について
3	神経症候学；頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状について
4	神経症候学；運動麻痺と錐体路徴候、筋萎縮について
5	神経症候学；錐体外路徴候、不随意運動について 運動失調について
6	脳血管障害；脳血管障害の分類、危険因子、病態について
7	脳血管障害；脳出血・くも膜下出血・脳梗塞の発生機序、診断、治療、予後について
8	脳血管障害；水頭症・慢性硬膜下血腫・頭部外傷の発生機序、診断、治療、予後について
9	髄膜炎の病態、症状について 脳腫瘍の部位と好発年齢、予後、治療について
10	認知症について
11	変性疾患；パーキンソン病・パーキンソン症候群の病態、症状、予後について
12	変性疾患；脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症の病態、症状、予後について
13	脱髄疾患；脱髄疾患の病態について 多発性硬化症・ギランバレー症候群の病態、症状、予後について
14	筋疾患；筋ジストロフィー・多発性筋炎・重症筋無力症の病態、症状、予後について
15	まとめ、学習の習熟度にあわせ補足

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
		○		授業者名		川原 潤基			
授業科目名	精神医学			1年次		2年次		3年次	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	前期	後期	前期	後期
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	精神医学の概要から各疾患の概念、歴史の変遷、疫学、症状と治療、経過と予後など、基本的知識を習得する。また、社会における精神医療の動向を学び、法制度や社会現象にみる精神保健の問題（自殺、薬物、犯罪、予防精神保健）を捉える。								
成績評価	小テスト、期末試験にて総合的に評価する。								
その他	川原 潤基（実務経験なし）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準精神医学 第8版	編集 尾崎紀夫 他	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	精神医学の概念、歴史、分類と診断について
2	発達障害の概要と各論（自閉症、注意欠如・多動症、限局性学習症、分離不安症、選択的緘黙、ゲーム症）について
3	統合失調症①概念、歴史、疫学について
4	統合失調症②症状、分類、経過・予後、治療について
5	うつ病①概念の歴史の変遷、疫学、診断について
6	うつ病②診断分類、経過・予後、治療について
7	双極性障害の概念、疫学、診断と診断分類、経過・予後、治療について
8	不安症・解離症・身体症状症の概要、症状、経過・予後、治療について
9	強迫症・心的外傷およびストレス関連障害の概要、症状、経過・予後、治療について
10	強迫症・心的外傷およびストレス関連障害の概要、症状、経過・予後、治療について
11	摂食障害の概要、症状、経過・予後、治療について
12	物質関連障害および嗜癖性障害の概要、症状、経過・予後、治療について
13	てんかんの概要、発作型と症状、経過・予後、治療について
14	パーソナリティ障害の概要、類型、疫学、臨床的特徴について
15	精神医療と社会（精神保健、地域精神医療、精神保健福祉法、司法精神医学）について

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○									
授業科目名	臨床心理学					担当者名		梶井 雅世				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	本講義では、今後作業療法士として患者の心理を理解し、援助に繋がられるような、臨床心理学の専門的な知識や技術を身につけることを目的とする。 また、心理検査などは実践を交えながら行うこととする。											
成績評価	課題、期末試験にて総合的に評価する。											
その他	梶井 雅世（実務経験なし）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハベシク 心理学・臨床心理学	内山靖・藤井浩美・立石雅子	医歯薬出版
参考図書	よくわかる臨床心理学	山口 創	川島書店

回数	授業計画
1	臨床心理学について（歴史・職域・支援）
2	心理アセスメントⅠ（インテーク）
3	心理アセスメントⅡ（投影法）
4	心理アセスメントⅢ（描画法）
5	心理アセスメントⅣ（質問紙法・作業検査法）
6	前半のまとめ
7	発達障害の主な症状・治療法・検査法
8	認知症の主な症状・治療法・スケール
9	防衛機制Ⅰ
10	防衛機制Ⅱ
11	心理療法Ⅰ（主な種類・役割）
12	心理療法Ⅱ（援助の実際）
13	心理療法Ⅲ（援助の実際）
14	面接の技法、転移・逆転移
15	補足とまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○									
授業科目名	リハビリテーションと作業療法					担当者名		出水 一美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	リハビリテーションまた作業療法の定義と理念、歴史的背景といった基本的な概略について理解し、作業療法の対象、対象者、実施過程、倫理、多職種連携について理解する。また、国際生活機能分類（ICF）について理解する。											
成績評価	課題や期末試験など総合的に判断し評価する。											
その他	出水 一美（実務経験なし）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準作業療法学 作業療法概論 第4版	矢谷令子(監修), 能登真一(編集)	医学書院
参考図書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版	里村恵子(編集)	メジカルビュー社

回数	授業計画
1	オリエンテーション リハビリテーションの定義、理念、歴史的背景、リハビリテーションの分類
2	障害とは何か；障害の概念と種類、定義 障害受容
3	リハビリテーションの流れ リハビリテーションと作業療法の接点
4	作業療法の定義、歴史的背景、実施過程
5	作業療法の対象と領域（身体障害領域）
6	作業療法の対象と領域（精神障害領域）
7	作業療法の対象と領域（発達障害領域）
8	作業療法の対象と領域（高齢者、地域領域）
9	国際生活機能分類（ICF）について①；歴史的背景、構成要素と各項目の関係
10	国際生活機能分類（ICF）について②；事例を通して理解
11	作業療法士に必要な職業倫理、個人情報管理①
12	チーム医療、多職種連携；関連職種とその役割、連携する意義を理解する①
13	チーム医療、多職種連携；関連職種とその役割、連携する意義を理解する②
14	チーム医療、多職種連携；まとめと発表
15	まとめ



科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
		○		授業者名		川原潤基、手嶋 雄太					
授業科目名	医療保健福祉制度論					担当者名		川原潤基、手嶋 雄太			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業者概要	医療、保健、福祉を含めた社会保障制度の全体的な枠組みを理解し、作業療法を実践する上で根拠となっている法律や条例、制度について学ぶ。介護保険制度については、包括的自立支援プログラムという基本的な考え方や、作業療法士のかかわりが求められる介護予防制度について理解し作業療法士の業務や役割を学ぶ。また、障害者総合支援法については、法律に基づく制度やシステムを包括的に捉え、作業療法士の業務や役割について学ぶ。										
成績評価	課題や小テスト、期末試験にて総合的に判断し評価する。										
その他	川原 潤基、手嶋 雄太（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	適宜プリント配布		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、社会保障制度の枠組みと、変遷について理解する。
2	医療保険制度の概略と医療機関の種類について理解する。
3	作業療法に関して、診療報酬の内容および算定の方法について理解する。
4	介護保険制度における作業療法士：介護保険制度の概略と仕組みについて理解する。
5	介護保険制度における作業療法士：介護予防施策、介護予防の実際について理解する。
6	介護保険制度における作業療法士：介護保険において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
7	介護保険制度における作業療法士：介護保険において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
8	実例を挙げてグループワーク、発表
9	障害者総合支援法における作業療法士：障害者福祉制度の変遷と障害者総合支援法の概要を理解する。
10	障害者総合支援法における作業療法士：自立支援給付とその内容について理解する。
11	障害者総合支援法における作業療法士：地域生活支援事業とその内容について理解する。
12	障害者総合支援法における作業療法士：障害者総合支援法において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
13	障害者総合支援法における作業療法士：障害者総合支援法において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
14	障害者総合支援法における作業療法士：障害者総合支援法において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	基礎作業学 I					担当者名	矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	本講義では、作業 (Occupation) が本来持っている言葉の意味を理解した上で、作業療法学における作業 (Occupation) の定義、分類、治療的応用などを理解することを目的とする。また、実際に治療手段としての作業を体験し、分析することで、知識と技術の理解を深める。										
成績評価	課題への取り組み、課題提出、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	矢ヶ部 華世子 (病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版	監修 古川 宏	医歯薬出版
参考図書	「作業」って何だろう	吉川 ひろみ	医歯薬出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション 作業療法で治療手段として用いる「作業」の意味を理解する。
2	自己の作業歴を振り返り、作業の持つ力を理解する。
3	作業を目的により分類し、理解を深める。フローモデルについて理解する。
4	自己の生活の作業バランスを知り、作業バランスの必要性を理解する。
5	作業分析の目的や種類を理解する。
6	革細工での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
7	革細工での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
8	革細工での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
9	革細工での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
10	革細工の包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
11	刺し子手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
12	刺し子手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
13	刺し子手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
14	刺し子手芸の包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
15	刺し子手芸の包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○							
授業科目名	基礎作業学Ⅱ					担当者名	矢ヶ部 華世子、堀川 和馬					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	作業療法士の治療手段は、「作業」である。実際に治療手段としての作業を体験し、分析することで知識と技術の理解を深める。											
成績評価	課題提出、期末試験にて総合的に判断する。											
その他	矢ヶ部 華世子・堀川 和馬（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動 実習マニュアル 第2版	監修 古川 宏	医歯薬出版
参考図書	作業－その治療的応用 改訂版2版	編集 社団法人 日本作業療法士協会	協同医書出版社

回数	授業計画
1	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
2	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
3	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
4	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
5	はり絵の包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
6	はり絵の包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
7	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
8	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
9	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
10	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
11	タイルモザイクの包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
12	タイルモザイクの包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
13	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
14	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
15	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
16	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。

科目区分	基礎分野			専門基礎分野			専門分野						
							○						
授業科目名	基礎作業学Ⅱ						担当者名		矢ヶ部 華世子、堀川 和馬				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等			1年次		2年次		3年次	
					授業時間数			前期	後期	前期	後期	前期	後期
単位数		2							60				

回数	授業計画
17	アンデルセン手芸の包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
18	アンデルセン手芸の包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
19	マクラメでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
20	マクラメでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
21	マクラメでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
22	マクラメの包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
23	マクラメの包括的作業分析を行い、治療への応用を理解する。
24	レクリエーションの計画立案、準備を行う。
25	レクリエーションの計画立案、準備を行う。
26	レクリエーションの計画立案、準備を行う。
27	レクリエーションの実践を行う。
28	レクリエーションの実践を行う。
29	レクリエーションの振り返り、発表を通して良かった点や改善点などを理解する。
30	レクリエーションの振り返り、発表を通して良かった点や改善点などを理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			OT学科					
授業科目名	作業療法理論					担当者名		都甲 幹太、矢ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	作業療法の臨床実践では、理論に基づいた実践、エビデンスに基づいた実践が求められている。本授業では、生活行為向上マネジメントについて概要および実践例を通して学習する。										
成績評価	課題や期末試験にて総合的に判断する。										
その他	都甲 幹太（介護老人保健施設において作業療法士として勤務） 矢ヶ部 華世子（病院作業療法室において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	適宜、資料を配布		
参考図書	作業療法理論の教科書	小川真寛 藤本一博 京極真	MEDICAL VIEW

回数	授業計画
1	総論（理論の定義、理論の必要性）について理解する。
2	生活行為マネジメントの概要について理解する。
3	生活行為マネジメントの概要について理解する。
4	生活行為マネジメントの概要について理解する。
5	生活行為マネジメントの概要について理解する。
6	生活行為マネジメントの概要について理解する。
7	生活行為マネジメントの概要について理解する。
8	生活行為マネジメントの概要について理解する。
9	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
10	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
11	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
12	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
13	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
14	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○								
授業科目名	作業療法研究法					担当者名	檀 拓真				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									15		
授業概要	研究を行うことは、対象者への利益や自分自身、その他のものにとって有益な手段となる。ここでは、研究デザインの基本的な知識や統計手法について理解を深めることを目的とする。										
成績評価	期末試験にて総合的に評価する。										
その他	檀 拓真（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	作業療法研究法マニュアル 改訂第3版	一般社団法人 日本作業療法士協会	日本作業療法士協会
参考図書			

回数	授業計画
1	研究とは（研究の意義、研究の進め方）、用語の説明
2	研究の倫理
3	統計解析の基礎知識（標準偏差）（正規分布）
4	統計解析の基礎知識（T検定）
5	統計学の基礎知識（分散）
6	縦断的研究と横断的研究、量的研究と質的研究について
7	シングルケースデザイン
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			OT学科					
授業科目名	作業療法管理学					担当者名	峯崎 佳世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	医療・介護に関わる作業療法士として、職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について理解する。										
成績評価	課題提出状況、授業の取り組み方、定期試験などを総合的に判断し評価する。										
その他	峯崎 佳世子（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学 PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	齋藤昭彦 下田信明 編集 山口 美和	羊土社 医学書院
参考図書	作業療法管理学入門	大庭潤平 編著	医歯薬出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション 管理、管理学とは（管理に必要な資源、PDCAサイクルについて）
2	リハビリテーション・作業療法における管理と管理学
3	作業療法に関わる組織と関連法規について
4	作業療法と諸制度について
5	作業療法士の倫理 対象者の権利と尊厳について
6	作業療法の診療記録と管理について
7	作業療法におけるサービスについて
8	医療安全のマネジメントについて
9	リスク管理（転倒）
10	リスク管理（感染）
11	リスク管理 まとめ
12	自己管理（時間管理・健康管理）
13	自己管理（感情管理）
14	臨床実習の理解と管理体制
15	まとめ





科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○							
授業科目名	基礎評価学 I (総論、関節可動域測定)					担当者名		堀川 和馬				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	作業療法は「評価にはじまり、評価に終わる」といわれており、評価は基本となる。本科目では作業療法評価の概要を理解し、基本的態度を身につけるとともに、形態計測、バイタルサイン、関節可動域測定について意義や手順を理解し基本的技術を習得する。											
成績評価	期末試験、実技試験、課題など総合的に判断し評価を行う。											
その他	堀川 和馬 (病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏、下田信明編集	羊土社
参考図書	PT・OT入門 イラストでわかる評価学	上杉 雅之、西守 隆ら	医歯薬出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション
2	リハビリテーション医療の評価
3	姿勢・形態計測；姿勢の評価
4	姿勢・形態計測；形態計測の目的、ランドマークの触診
5	姿勢・形態計測；周径とその意義、周径の測定
6	姿勢・形態計測；四肢長とその意義、四肢長の測定
7	意識障害、全身状態の評価の概要
8	バイタルサインの意義
9	脈拍測定
10	血圧測定
11	血圧測定
12	呼吸測定
13	まとめと補足
14	関節可動域測定；関節の構造、最終域感と関節可動域制限とその原因
15	関節可動域測定；関節可動域検査の手順、注意点
16	関節可動域測定；上肢（肩関節）の測定

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			○					
授業科目名	基礎評価学 I (総論、関節可動域測定)					担当者名		堀川 和馬			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

回数	授業計画
17	関節可動域測定 ; 上肢 (肩関節) の測定
18	関節可動域測定 ; 上肢 (肘～手指) の測定
19	関節可動域測定 ; 上肢 (肘～手指) の測定
20	関節可動域測定 ; 下肢 (股関節) の測定
21	関節可動域測定 ; 下肢 (股関節) の測定
22	関節可動域測定 ; 下肢 (膝～足関節) の測定
23	関節可動域測定 ; 頸部、体幹、手指の測定
24	関節可動域測定 ; 頸部、体幹、手指の測定
25	関節可動域測定 ; まとめ (実技試験)
26	関節可動域測定 ; まとめ (実技試験)
27	評価の基礎 ; 評価の過程
28	評価の基礎 ; 観察、検査・測定、統合と解釈、問題点の抽出
29	評価の基礎 ; 目標・治療計画の設定、記録
30	まとめと補足

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○							
授業科目名	基礎評価学Ⅱ（感覚検査、筋力検査）					担当者名	杉本 互、峯崎 佳世子					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	身体障害分野で基本となる知覚検査、疼痛検査、筋力検査、脳神経検査について目的、意義、手順を理解し、基本的技術を習得する。											
成績評価	実技試験、課題、期末試験など総合的に判断し評価を行う。											
その他	峯崎 佳世子、杉本 互（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハビリテーション基礎評価学 第2版 新・徒手筋力検査法 原著 第10版	潮見泰藏、下田信明編集 津山直一・中村耕三訳	羊土社 協同医書出版社
参考図書	PT・OT入門 イラストでわかる評価学	上杉 雅之、西守 隆ら	医歯薬出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション 知覚検査；感覚の分類と伝導路
2	知覚検査；感覚の分類と伝導路
3	知覚検査；表在感覚検査の意義と検査法
4	知覚検査；表在感覚検査の意義と検査法
5	知覚検査；深部感覚検査の意義と検査法
6	知覚検査；複合感覚検査の意義と検査法
7	知覚検査；対象となる疾患と知覚検査の意義を理解する。
8	知覚検査；対象となる疾患と知覚検査の意義を理解する。
9	疼痛の評価；疼痛検査の意義と検査法
10	疼痛の評価；検査の一部を実施
11	筋力検査；筋力とは何か、検査の意義について理解する。
12	筋力検査；徒手筋力検査法の基礎、判断基準、検査手順について理解する。
13	筋力検査；徒手筋力検査法の実際（肩関節）
14	筋力検査；徒手筋力検査法の実際（肩関節）
15	筋力検査；徒手筋力検査法の実際（肩関節）
16	筋力検査；徒手筋力検査法の実際（肘関節）



科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科						
					○								
授業科目名	基礎評価学Ⅲ（神経学的検査）					担当者名		笠木 理江					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
授業概要	身体障害分野で行われる反射・筋緊張検査、協調性検査、片麻痺機能検査、バランス検査、上肢機能検査について目的、意義、手順を理解し、基本的技術を習得する。												
成績評価	期末試験、実技、課題を含め総合的に評価する。												
その他	笠木 理江（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏、下田信明編集	羊土社

回数	授業計画
1	オリエンテーション 反射・筋緊張検査；反射の種類とメカニズム、反射検査の目的、意義の理解
2	反射・筋緊張検査；反射検査の検査法と結果の解釈
3	反射・筋緊張検査；筋緊張検査の目的、意義と検査法
4	反射・筋緊張検査；筋緊張検査結果の解釈
5	協調性検査；協調性検査の種類、目的と意義の理解
6	協調性検査；協調性検査法と結果の解釈
7	片麻痺機能検査；片麻痺の運動機能回復の理解、片麻痺機能検査の目的、意義の理解
8	片麻痺機能検査；片麻痺機能検査法の実際①
9	片麻痺機能検査；片麻痺機能検査法の実際②
10	姿勢バランス検査；バランス検査の種類、目的と意義の理解
11	姿勢バランス検査；バランス検査法の実際①
12	姿勢バランス検査；バランス検査法の実際②
13	上肢機能検査；上肢機能を構成する構成要素の理解、上肢機能検査の目的と意義
14	上肢機能検査；STEF検査法の実際
15	補足とまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○						
授業科目名	基礎評価学Ⅳ（画像診断ほか）					担当者名		笠木 理江			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	対象者の病態、症状を把握する上で画像の情報を読み取る技術が求められる。画像についての基礎、各病態についての画像の特徴を理解する。										
成績評価	期末試験、課題など総合的に判断し評価を行う。										
その他	笠木 理江（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版	中島雅美、中島喜代彦 編著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション 画像の特徴（X線、CT、MRIなど）
2	脳画像各スライド断面の脳の構造
3	脳梗塞（前大脳動脈、中大脳動脈領域）の画像と症状
4	脳梗塞（後大脳動脈領域、多発性脳梗塞）の画像と症状
5	脳内出血（被殻出血、視床出血）の画像と症状
6	くも膜下出血、頭部外傷（硬膜下血腫、硬膜外血腫）の画像と症状
7	脳血管障害の脳画像から診る障害部位と症状の予測
8	脊柱（頸椎椎間板ヘルニア、腰椎椎間板ヘルニア）の画像と症状
9	脊柱（腰部脊柱管狭窄症、椎体圧迫骨折）の画像と症状
10	上腕骨頸部骨折、上腕骨顆上骨折について
11	変形性股関節症、大腿骨頸部骨折（人工股関節置換術）の画像、症状と禁忌動作
12	大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術）、大腿骨転子部骨折（ $\gamma$ ネイル）の画像と症状
13	橈骨遠位端骨折の画像と症状
14	関節リウマチ（手部）の画像と症状
15	補足、まとめ

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	基礎評価技術演習					担当者名	出水一美、堀川和馬、川原潤基、杉本互				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次			
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	感染予防に対する理解と予防策を行い、対象者に合わせた基本的な検査・測定を行えるとともに特に身体障害分野で多い整形疾患、脳卒中片麻痺に対する検査・測定の一部、また精神分野での面接検査を模擬的に行えることを目的とする。										
成績評価	実技試験、身だしなみなど総合的に判断し評価を行う。										
その他	出水一美、堀川和馬、川原潤基、杉本互（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE（第2版補訂版）	才藤 栄一監修	金原出版株式会社
参考図書	リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏、下田信明編集	羊土社

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 精神分野に対する面接技法演習（事例に合わせた面接方法）
2	精神分野に対する面接技法演習（事例に合わせた面接方法）
3	精神分野に対する評価（HDS-R、MMSE）
4	精神分野に対する評価（HDS-R、MMSE）
5	標準感染予防策（手指衛生方法、感染防具着脱方法）
6	脈拍・血圧測定演習
7	関節可動域測定法（上肢）演習
8	関節可動域測定法（上肢）演習
9	関節可動域測定法（下肢）演習
10	関節可動域測定法（下肢）演習
11	徒手筋力検査法（上肢）演習
12	徒手筋力検査法（上肢）演習
13	徒手筋力検査法（下肢）演習
14	徒手筋力検査法（下肢）演習
15	感覚検査（触覚、痛覚、運動覚、位置覚）・反射（腱反射：上腕二頭筋、腕橈骨筋、膝蓋腱、アキレス腱 病的反射：ホフマン、トレムナー、ワルテンベルク、バンピンスキー）演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	基礎評価技術演習					担当者名	出水一美、堀川和馬、川原潤基、杉本互				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		
授業概要	感染予防に対する理解と予防策を行い、対象者に合わせた基本的な検査・測定を行えるとともに特に身体障害分野で多い整形疾患、脳卒中片麻痺に対する検査・測定の一部、また精神分野での面接検査を模擬的に行えることを目的とする。										
成績評価	実技試験、身だしなみなど総合的に判断し評価を行う。										
その他	出水一美、堀川和馬、川原潤基、杉本互（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE（第2版補訂版）	才藤 栄一監修	金原出版株式会社
参考図書	リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏、下田信明編集	羊土社

回数	授業計画
16	感覚検査（触覚、痛覚、運動覚、位置覚）・反射（腱反射：上腕二頭筋、腕橈骨筋、膝蓋腱、アキレス腱 病的反射：ホフマン、トレムナー、ワルテンベルク、バンビンスキー）演習
17	バランス検査（外乱、内乱、FBS）
18	バランス検査（外乱、内乱、FBS）
19	整形外科疾患に対する検査・測定演習（四肢長・周径測定、末梢神経損傷）
20	整形外科疾患に対する検査・測定演習（四肢長・周径測定、末梢神経損傷）
21	脳血管障害（片麻痺）に対する検査・測定演習（ブルンストロームステージ）
22	脳血管障害（片麻痺）に対する検査・測定演習（ブルンストロームステージ）
23	脳血管障害（片麻痺）に対する検査・測定演習（SIAS、FMA）
24	脳血管障害（片麻痺）に対する検査・測定演習（SIAS、FMA）
25	脳血管障害（片麻痺）に対する検査・測定演習（MAS、三角巾、高次脳機能障害）
26	脳血管障害（片麻痺）に対する検査・測定演習（MAS、三角巾、高次脳機能障害）
27	動作分析（座位、立位、起立、ADL）
28	介助方法（起居・移乗・車椅子駆動）演習
29	介助方法（起居・移乗・車椅子駆動）演習
30	まとめ



科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			OT学科					
授業科目名	日常生活活動学 I					担当者名		峯崎 佳世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	リハビリテーションにおける日常生活の概念、範囲を理解し、基本動作や身の回り動作、手段的日常生活動作の特徴を体験を通して理解する。										
成績評価	期末試験にて評価する。										
その他	峯崎 佳世子 (病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動 (ADL)	長崎重信、木之瀬隆 他	メジカルビュー社
参考図書	日常生活活動 (ADL) 第2版	千住秀明 監修	神陵文庫

回数	授業計画
1	ADLの概念と範囲について理解する。
2	ADLの評価の目的や評価方法を列挙し、内容を理解する。
3	ADLの種類 (基本動作、身の回り動作) について理解する。
4	基本動作 (寝返り) の概要を学び、動作を分析し理解する。
5	基本動作 (起き上がり、立ち上がり) の概要を学び、動作を分析し理解する。
6	基本動作 (移乗、移動動作) の概要を学び、動作を分析し理解する。
7	食事動作の概要を学び、動作を分析し理解する。
8	整容動作の概要を学び、動作を分析し理解する。
9	排泄動作の概要を学び、動作を分析し理解する。
10	更衣動作の概要を学び、動作を分析し理解する。
11	入浴動作の概要を学び、動作を分析し理解する。
12	調理動作・家事動作の全体像を学び、必要な機能や動作について理解する。
13	セルフケアの身体活動の特徴を体験を通して理解し、グループワークを行う。
14	各グループで発表を行い理解を深める。
15	補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	日常生活活動学Ⅱ					担当者名		峯崎 佳世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	日常生活動作評価を理解し、障害別における日常生活動作評価と支援について体験を通して理解する。										
成績評価	課題や期末試験にて総合的に判断し評価する。										
その他	峯崎 佳世子（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動（ADL）	長崎重信、木之瀬隆 他	メジカルビュー社
参考図書	日常生活活動（ADL）第2版	千住秀明 監修	神陵文庫

回数	授業計画
1	ADL評価：FIMの概要を理解する。
2	ADL評価：FIMの運動項目の採点方法を理解する。
3	ADL評価：FIMの運動項目の採点方法を事例を通して理解する。
4	ADL評価：FIMの認知項目の採点方法を理解する。
5	自助具・福祉用具の種類・目的を理解し、活用例を挙げることができる。
6	障害別（片麻痺）のADLの障害の概要、治療・指導・支援について理解する。①
7	障害別（片麻痺）のADLの障害の概要、治療・指導・支援について理解する。②
8	障害別（片麻痺）のセルフケアを体験を通して理解し、グループワークを行う。
9	各グループで発表を行い理解を深める。
10	障害別（大腿骨頸部骨折）のADLの障害の概要、治療・指導・支援について理解する。
11	障害別（大腿骨頸部骨折）のセルフケアを体験を通して理解し、グループワークを行う。
12	障害別（関節リウマチ）のADLの障害の概要、治療・指導・支援について理解する。
13	障害別（内部障害）のADLの障害の概要、治療・指導・支援について理解する。
14	障害別（パーキンソン病）のADLの障害の概要、治療・指導・支援について理解する。
15	補足とまとめ

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○							
授業科目名	義肢学					担当者名		檀 拓真				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
	単位数	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
授業概要	義肢とは四肢の物質的な欠損を代償するものである。本講義では、義肢、車椅子の名称、使用方法などを理解し、説明できることを目的とする。											
成績評価	期末試験にて評価する。											
その他	檀 拓真（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）											

使用教材	書籍名		著者名		出版社名	
教科書	ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学		山中 武彦		メジカルビュー社	
参考図書						

回数	授業計画
1	義肢総論 切断の分類
2	前腕義手について
3	前腕義手の適合判定について
4	上腕義手について
5	上腕義手の適合判定について
6	筋電義手について
7	下腿義足について
8	大腿義足について
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○	担当者名		檀 拓真					
授業科目名	装具学										
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
	単位数	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	装具療法の概念を学び、疾患別の装具の適応について理解することを目的とする。また、スプリント作成を通して、装具の採型などについても学ぶ。										
成績評価	期末試験にて評価する。										
その他	檀 拓真（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学	山中 武彦	メジカルビュー社
参考図書	基本スプリントの作りかた	日本整形外科学会 監修 山口淳 監修	医歯薬出版

回数	授業計画
1	装具総論
2	上肢装具について
3	下肢装具について
4	体幹装具について
5	装具の目的、適応
6	スプリントについて（各種スプリント）
7	スプリントの型について
8	スプリント作成の流れ、作成
9	脳卒中片麻痺の上肢装具について
10	脳卒中片麻痺の下肢装具について
11	末梢神経損傷の装具について①
12	末梢神経損傷の装具について②
13	頸髄損傷の装具について
14	関節リウマチの装具療法について
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○							
授業科目名	中枢神経疾患の作業療法治療学 I					担当者名		堀川 和馬				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								60				
授業概要	中枢疾患、神経筋疾患について理解し、作業療法の特性を生かした評価・治療・指導・援助の方法を学習する。											
成績評価	課題や発表、期末試験にて総合的に判断し評価する。											
その他	堀川 和馬（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版	長崎 重信 編	メジカルビュー社
	作業療法学全書 身体障害 改訂第3版	菅原 洋子 編集	協同医書出版社
参考図書	病気がみえるvol.7 脳・神経（第2版） リハビリテーション基礎評価学 第2版	岡庭 豊 潮見泰藏、下田信明 編集	MEDIC MEDIA 羊土社

回数	授業計画
1	オリエンテーション、神経系の基本的解剖、生理について
2	神経系の基本的解剖、生理について
3	画像所見について
4	脳血管障害の病態と症状、治療について
5	脳血管疾患の作業療法介入について（急性期：リスク管理）
6	脳血管疾患の作業療法介入について（急性期：評価）
7	脳血管疾患の作業療法介入について（急性期：目標設定、治療）
8	脳血管疾患の作業療法介入について（実例を挙げてグループ学習、発表）
9	脳血管疾患の作業療法介入について（実例を挙げてグループ学習、発表）
10	脳血管疾患の作業療法介入について（実例を挙げてグループ学習、発表）
11	脳血管疾患の作業療法介入について（回復期：リスク管理）
12	脳血管疾患の作業療法介入について（回復期：評価）
13	脳血管疾患の作業療法介入について（回復期：目標設定、治療）
14	脳血管疾患の作業療法介入について（実例を挙げてグループ学習、発表）
15	脳血管疾患の作業療法介入について（実例を挙げてグループ学習、発表）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科						
					○								
授業科目名	中枢神経疾患の作業療法治療学 I					担当者名		堀川 和馬					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
授業概要	中枢疾患、神経筋疾患について理解し、作業療法の特性を生かした評価・治療・指導・援助の方法を学習する。												
成績評価	課題や発表、期末試験にて総合的に判断し評価する。												
その他	堀川 和馬（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版	長崎 重信 編	メジカルビュー社
	作業療法学全書 身体障害 改訂第3版	菅原 洋子 編	協同医書出版社
参考図書	病気がみえるvol.7 脳・神経（第2版） リハビリテーション基礎評価学 第2版	岡庭 豊 潮見泰藏、下田信明 編集	MEDIC MEDIA 羊土社

回数	授業計画
16	脳血管疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
17	脳血管疾患の作業療法介入について（維持期：リスク管理）
18	脳血管疾患の作業療法介入について（維持期：評価）
19	脳血管疾患の作業療法介入について（維持期：目標設定、治療）
20	脳血管疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
21	脳血管疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
22	脳血管疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
23	学習の習熟度に合わせ補足とまとめ
24	錐体外路系障害（大脳基底核の機能解剖について）
25	錐体外路系障害（パーキンソン病の病態と症状、治療について）
26	錐体外路系障害（パーキンソン病の作業療法、リスク管理、評価、目標設定、治療）
27	小脳系障害（小脳の機能解剖について）
28	小脳系障害（小脳疾患の病態と症状、治療について）
29	小脳系障害（小脳疾患の作業療法、リスク管理、評価、目標設定、治療）
30	学習の習熟度に合わせ補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	中枢神経疾患の作業療法治療学Ⅱ					担当者名		堀川 和馬			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	中枢疾患、神経筋疾患について理解し、作業療法の特性を生かした評価・治療・指導・援助の方法を学習する。										
成績評価	課題や発表、期末試験にて総合的に判断し評価する。										
その他	堀川 和馬（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版	長崎 重信 編	メジカルビュー社
	作業療法学全書 身体障害 改訂第3版	菅原 洋子 編	協同医書出版社
参考図書	病気がみえるvol.7 脳・神経（第2版） リハビリテーション基礎評価学 第2版	岡庭 豊 潮見泰藏、下田信明 編集	MEDIC MEDIA 羊土社

回数	授業計画
1	オリエンテーション、脊椎・脊髄の基本的な解剖・生理について
2	脊髄損傷の病態と症状、治療について
3	頸椎症性脊髄症の作業療法介入について（リスク管理、評価、目標設定、治療）
4	脊髄損傷の作業療法介入について（C4、C5）残存機能と基本動作、可能なADLについて
5	脊髄損傷の作業療法介入について（C4、C5）ADL訓練の実際と自助具
6	脊髄損傷の作業療法介入について（C6、C7）残存機能と基本動作、可能なADLについて
7	脊髄損傷の作業療法介入について（C6、C7）ADL訓練の実際と自助具
8	脊髄損傷の作業療法介入について（C8、腰仙髄レベル）残存機能と基本動作、可能なADLについて
9	脊髄損傷の作業療法介入について（C8、腰仙髄レベル）ADL訓練の実際と自助具
10	脊髄損傷の作業療法介入について（実例を挙げてグループ学習、発表）
11	脊髄損傷の作業療法介入について（実例を挙げてグループ学習、発表）
12	オリエンテーション、神経・筋疾患（ギラン・バレー症候群、多発性硬化症の理解と作業療法について）
13	神経・筋疾患（筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィーの理解と作業療法について）
14	神経・筋疾患（多発性筋炎・皮膚筋炎、重症筋無力症の理解と作業療法について）
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○						
授業科目名	運動器疾患の作業療法治療学					担当者名		野口 秀、檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	整形外科疾患の中でも、作業療法の対象となる主な疾患についての原因、症状、治療などを理解し、作業療法評価および介入について理解します。										
成績評価	課題提出、小テスト、期末試験など総合的に評価する。										
その他	野口 秀、檀 拓真（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 病気がみえる 運動器・整形外科	長崎 重信 編 岡庭 豊	メジカルビュー社 MEDIC MEDIA
参考図書	作業療法学全書 身体障害	菅原 洋子編集	協働医書出版社

回数	授業計画
1	オリエンテーション 骨折；骨折の定義、分類、治癒過程、合併症について理解する
2	骨折；骨折の画像、治療について理解する
3	骨折；橈骨遠位端骨折の病態、症状、合併症、治療について理解する
4	骨折；橈骨遠位端骨折の作業療法評価、介入について理解する
5	骨折；大腿骨頸部骨折の病態、症状、合併症、治療について理解する
6	骨折；大腿骨頸部骨折の作業療法評価、介入について理解する
7	骨折；腰椎圧迫骨折の病態、症状、合併症、治療について理解する
8	骨折；腰椎圧迫骨折の作業療法評価、介入について理解する
9	末梢神経損傷；末梢神経の解剖、生理について理解する
10	末梢神経損傷；上肢機能を支配する末梢神経について理解する
11	手の末梢神経損傷；正中神経損傷について理解し、作業療法評価、介入について理解する
12	手の末梢神経損傷；正中神経損傷について理解し、作業療法評価、介入について理解する
13	手の末梢神経損傷；尺骨神経損傷について理解し、作業療法評価、介入について理解する
14	手の末梢神経損傷；尺骨神経損傷について理解し、作業療法評価、介入について理解する
15	手の末梢神経損傷；橈骨神経損傷について理解し、作業療法評価、介入について理解する



科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○						
授業科目名	運動器疾患の作業療法治療学				担当者名	野口 秀、檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							60		
授業概要	整形外科疾患の中でも、作業療法の対象となる主な疾患についての原因、症状、治療などを理解し、作業療法評価および介入について理解します。								
成績評価	課題提出、小テスト、期末試験など総合的に評価する。								
その他	野口 秀、檀 拓真（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）								

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 改訂第3版 病気がみえる 運動器・整形外科	長崎 重信 編 岡庭 豊	メジカルビュー社 MEDIC MEDIA
参考図書	作業療法学全書 身体障害	菅原 洋子編集	協働医書出版社

回数	授業計画
16	手の末梢神経損傷；各種検査法方と、術後の作業療法介入について理解する
17	退行性疾患；変形性膝関節症の病態、症状、作業療法評価、介入について理解する
18	関節リウマチ；関節リウマチの病態、経過、分類について理解する
19	関節リウマチ；関節リウマチの症状、機能障害とADLへの影響を理解する
20	関節リウマチ；関節リウマチに対する作業療法評価と介入について理解する
21	関節リウマチ；関節リウマチに対する作業療法評価と介入について理解する
22	腱板損傷；腱板について理解する
23	腱板損傷；腱板損傷の病態、症状、評価、治療について理解する
24	腱板損傷；腱板損傷に対する作業療法評価、介入について理解する
25	手外科疾患；手の機能解剖について理解する
26	手外科疾患；手の屈筋腱損傷の特徴、合併症、治療について理解する
27	手外科疾患；手の屈筋腱損傷に対する作業療法評価、介入について理解する
28	熱傷；皮膚の構造と熱傷の分類、治療について理解する
29	熱傷；熱傷（特に手部）に対する作業療法評価と介入について理解する
30	習熟状況にあわせ補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	内部障害の作業療法治療学 I					担当者名		杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	内部障害系疾患について理解し、作業療法の特性を生かした評価・治療・指導・援助の方法を学習する。										
成績評価	課題や小テスト、期末試験にて総合的に判断し評価する。										
その他	杉本 亙（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第3版	長崎 重信 編	メジカルビュー社
参考図書	病気がみえるvol.2 循環器（第4版） 病気がみえるvol.3 糖尿病・代謝・内分泌（第5版） 病気がみえるvol.8 腎・泌尿器（第3版）		MEDIC MEDIA

回数	授業計画
1	オリエンテーション 循環器系の基本的解剖生理、疾患の復習
2	循環器疾患の作業療法介入について（評価：画像所見、心エコー、生化学検査の見方）
3	循環器疾患の作業療法介入について（評価：心電図の見方）
4	循環器疾患の作業療法介入について（その他作業療法評価、リスク管理）
5	循環器疾患の作業療法介入について（治療、運動療法）
6	循環器疾患の作業療法介入について（目標設定、作業療法士の役割）
7	循環器疾患の作業療法介入について（ADL・IADL指導）
8	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ
9	循環器疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
10	循環器疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
11	代謝障害（糖尿病）の病態と症状、治療について
12	代謝障害（糖尿病）の作業療法介入について（リスク管理、評価、目標設定、治療）
13	代謝障害（腎臓疾患）の病態と症状、治療について
14	代謝障害（腎臓疾患）の作業療法介入について（リスク管理、評価、目標設定、治療）
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野								
					○								
授業科目名	内部障害の作業療法治療学Ⅱ					担当者名		杉本 互					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
授業概要	内部障害疾患について理解し、作業療法の特性を生かした評価・治療・指導・援助の方法を学習する。												
成績評価	課題や小テスト、期末試験にて総合的に判断し評価する。												
その他	杉本 互（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第3版	長崎 重信 編	メジカルビュー社
参考図書	病気がみえるvol.4 呼吸器（第3版）		MEDIC MEDIA

回数	授業計画
1	オリエンテーション 呼吸器系の基本的解剖の復習
2	代表的な呼吸器疾患の病態と症状、治療について
3	呼吸器疾患の作業療法介入について（リスク管理、評価：画像、スパイログラム、生化学検査）
4	呼吸器疾患の作業療法介入について（リスク管理、評価：フィジカルアセスメント）
5	呼吸器疾患の作業療法介入について（リスク管理、評価：その他作業療法評価）
6	呼吸器疾患の作業療法介入について（治療、目標設定）
7	呼吸器疾患の作業療法介入について（作業療法士の役割、ADL・IADL指導）
8	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ
9	呼吸器疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
10	呼吸器疾患の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）
11	悪性腫瘍について（病態と症状、治療について）
12	乳がんの作業療法介入について（リスク管理、評価、目標設定、治療）
13	ターミナル期の作業療法介入について（リスク管理、評価、目標設定、治療）
14	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ
15	悪性腫瘍の作業療法介入について（事例を挙げてグループ学習、発表）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○						
授業科目名	精神障害の作業療法治療学 I					担当者名		矢ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	精神医療の現状や治療構造などを理解する。また、精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の基本的な評価、治療の方法について理解する。										
成績評価	課題、小テスト、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	矢ヶ部 華世子（病院作業療法室において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	①ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版 ②精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	①監修 長崎重信 ②朝田 隆他	①メジカルビュー社 ②中央法規
参考図書	精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで	香山 明美他	医歯薬出版

回数	授業計画
1	オリエンテーション 精神障害者、精神科作業療法とは何かを理解する。
2	精神科医療のあゆみを知り、精神科医療の現状を理解する。
3	精神障害者の現状、作業療法の流れ、治療構造を理解する。 対象者を理解する治療的態度、関わり方、時間・頻度・場所などについて理解する。
4	個人、集団の治療因子、構造の仕組みを理解する。
5	回復過程の流れについて理解する。
6	統合失調症：分類、症状、回復過程などについて理解する。
7	統合失調症：評価（評価の流れ、情報収集、観察）を理解する。
8	統合失調症：評価（面接）を理解する。
9	統合失調症：陽性症状、陰性症状、認知機能障害の評価、生活障害を理解する。
10	統合失調症：陽性症状、陰性症状、認知機能障害の評価、生活障害を理解する。
11	統合失調症：作業に関する自己評価、作業質問紙の評価を理解する。
12	統合失調症：作業に関する自己評価、作業質問紙の評価を理解する。
13	統合失調症：長期在院を理解する。
14	統合失調症：急性期作業療法の目的、役割を理解する。
15	統合失調症：回復期前期の作業療法の目的、役割を理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	精神障害の作業療法治療学 I					担当者名		矢ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	精神医療の現状や治療構造、作業療法評価の基礎を理解する。また、精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について理解する。										
成績評価	課題、小テスト、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	矢ヶ部 華世子（病院作業療法室において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	①ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版 ②精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	①監修 長崎重信 ②朝田 隆他	①メジカルビュー社 ②中央法規
参考図書	精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで	香山 明美他	医歯薬出版

回数	授業計画
16	統合失調症：回復期後期の作業療法の目的、役割を理解する。
17	統合失調症：維持期作業療法、退院支援の目的、役割を理解する。
18	気分障害：症状、回復過程、生活障害などについて理解する。
19	気分障害：評価（面接、情報収集、観察、検査）を理解する。
20	気分障害：評価（面接、情報収集、観察、検査）を理解する。
21	気分障害：薬物療法、認知行動療法などを理解する。
22	気分障害：急性期の作業療法の目的、役割について理解する。
23	気分障害：回復期前期の作業療法の目的、役割について理解する。
24	気分障害：回復期後期の作業療法の目的、役割について理解する。
25	気分障害：回復期後期の作業療法の目的、役割について理解する。
26	神経症圏：分類、疾患について理解する。
27	神経症圏：作業療法評価について理解する。
28	神経症圏：作業療法の目的、対応、治療について理解する。
29	神経症圏：作業療法の目的、対応、治療について理解する。
30	学習の補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	精神障害の作業療法治療学Ⅱ					担当者名	矢ヶ部 華世子、川原 潤基				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	精神障害(発達障害を含む)領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について理解する。										
成績評価	課題、小テスト、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	矢ヶ部 華世子、川原 潤基 (病院作業療法室において作業療法士として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	①ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版 ②精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	①監修 長崎重信 ②朝田 隆他	①メジカルビュー社 ②中央法規
参考図書	精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで	香山 明美他	医歯薬出版

回数	授業計画
1	摂食障害: 疾患について理解する。
2	摂食障害: 作業療法の目的、対応、治療について理解する。
3	摂食障害: 作業療法の目的、対応、治療について理解する。
4	パーソナリティ障害: 分類、症状について理解する。
5	パーソナリティ障害: 境界性パーソナリティー障害の症状、生活障害について理解する。
6	パーソナリティ障害: 境界性パーソナリティー障害の作業療法について理解する。
7	パーソナリティ障害: 境界性パーソナリティー障害の作業療法について理解する。
8	パーソナリティ障害: パーソナリティー障害の作業療法について理解する。
9	依存症: 疾患の特性、生活障害について理解する。
10	依存症: 評価について理解する。
11	依存症: 導入期と回復期の作業療法の目的、対応、治療について理解する。
12	依存症: 導入期と回復期の作業療法の目的、対応、治療について理解する。
13	てんかん: 発作の分類、疾患の特徴について理解する。
14	てんかん: 評価、作業療法について理解する。
15	てんかん: 評価、作業療法について理解する。

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○							
授業科目名	精神障害の作業療法治療学Ⅱ					担当者名		矢ヶ部 華世子、川原 潤基				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									60			
授業概要	精神障害(発達障害を含む)領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について理解する。											
成績評価	課題、小テスト、期末試験にて総合的に評価する。											
その他	矢ヶ部 華世子、川原 潤基 (病院作業療法室において作業療法士として勤務)											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	①ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版 ②精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	①監修 長崎重信 ②朝田 隆他	①メジカルビュー社 ②中央法規
参考図書	精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで	香山 明美他	医歯薬出版

回数	授業計画
16	知的障害：疾患の特性、生活障害について理解する。
17	知的障害：作業療法について理解する。
18	習熟状況に合わせた補足とまとめ
19	自閉症スペクトラム障害の生活障害、評価を理解する。
20	自閉症スペクトラム障害の作業療法を理解する。
21	ADHDの生活障害、評価を理解する。
22	ADHDの作業療法を理解する。
23	学習障害の障害特性、生活障害、評価を理解する。
24	学習障害の作業療法を理解する。
25	リハビリとACT、訪問作業療法を理解する。
26	通所系施設におけるリハビリテーション
27	社会生活技能訓練の理論背景と実施方法について学ぶ。
28	社会生活技能訓練の実施
29	社会生活技能訓練の実施
30	学習の補足とまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科						
					○								
授業科目名	高次脳機能障害の作業療法治療学					担当者名		笠木 理江					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
授業概要	高次脳機能障害に対する作業療法実践に関する基本的知識と生活障害の特徴を理解する。 高次脳機能障害の概要、障害像、作業療法評価と介入の一連について理解する。												
成績評価	課題提出、期末試験など総合的に判断し評価を行う。												
その他	笠木 理江（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスター 高次脳機能障害作業療法学 病気がみえるvol.7（脳・神経）第2版	長崎重信、鈴木孝治	メジカルビュー社 MWDIC MWDIA
参考図書	高次脳機能障害学 作業療法学全書	石合純夫 澁 雅子 編集	医歯薬出版 協同医書出版社

回数	授業計画
1	オリエンテーション 総論、脳の機能解剖、高次脳機能障害の分類と特徴、原因疾患
2	注意障害；分類、症状、評価と介入
3	注意障害；分類、症状、評価と介入
4	半側空間無視；分類、責任病巣
5	半側空間無視；評価と介入
6	失認と関連症候
7	失認と関連症候
8	言語障害；責任病巣、特徴
9	言語障害；評価、介入
10	行為・行動障害；失行の定義と分類、評価、介入
11	遂行機能障害；特徴、評価、介入
12	遂行機能障害；特徴、評価、介入
13	記憶障害；分類、症状、評価、介入
14	記憶障害；分類、症状、評価、介入
15	補足とまとめ



科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	老年期の作業療法治療学					担当者名	出水 一美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	高齢期作業療法の実践にあたり、高齢者に多い疾患や認知症高齢者等に対する作業療法のあり方を考え、理解する。また、作業療法へも関連がある介護保険制度を理解する。										
成績評価	課題の提出や発表、期末試験など総合的に判断し評価する。										
その他	出水 一美（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	ゴールドマスター・テキスト 老年期作業療法学	長崎重信、徳永千尋、田村孝司	メジカルビュー社
参考図書	高齢期領域の作業療法 第2版	山田孝 監修	中央法規

回数	授業計画
1	オリエンテーション、生理的老化現象と特性について理解する。
2	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて理解する。
3	廃用症候群に対する作業療法評価、介入方法をグループで検討する。—①
4	①で検討したものをグループ発表し、全体で共有する。
5	認知症の症状と評価についてグループで学習し、理解する。
6	認知症の評価を学習し、実践する。
7	認知症の4つの型について、原因、特徴となる症状、リハビリテーションの治療方法についてグループで学習しまとめる。(1)
8	認知症の4つの型について、原因、特徴となる症状、リハビリテーションの治療方法についてグループで学習しまとめる。(2)
9	まとめをグループ発表し、全体で情報を共有する。
10	認知症の事例を用いて、グループで面接内容から問題点を抽出し評価を検討する。—②
11	②で検討したもから問題点を抽出し、作業療法の治療プログラムを立案する。
12	認知症患者への作業療法の介入方法について理解する。
13	高齢者における整形外科疾患について学習し、リハビリテーションの目的を理解する。骨折患者の事例を用いて、観察・面接項目を列挙し、グループにて評価項目を検討する—③
14	③の事例を用いて、グループにて問題点、ゴール設定、治療プログラムを立案する。
15	グループ発表を行い、全体で情報を共有する。その他補足などまとめ。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	小児疾患の作業療法治療学					担当者名		濱本 孝弘			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	運動発達の障害について代表的な疾患の理解、障害像および作業療法介入について理解する。										
成績評価	課題、小テスト、期末試験など総合的に判断し評価する。										
その他	濱本 孝弘（施設において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	イラストでわかる発達障害の作業療法 写真で見る乳児の運動発達	上杉 雅之（監） Lois Bly	医歯薬出版 協同医書出版社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 発達障害総論、作業療法における対象疾患の概要
2	発達検査；正常発達、反射反応
3	発達検査①
4	発達検査②
5	子どものコミュニケーション機能に発達過程について
6	発達障害領域の作業療法評価；子供の作業に焦点を当てる必要性を学び、作業療法の評価の流れ（情報収集、面接、観察）について
7	脳性麻痺総論；定義、原因、分類と各タイプの特徴
8	脳性麻痺；痙直型脳性麻痺児の理解と作業療法
9	脳性麻痺；アトローゼ型脳性麻痺児の理解と作業療法
10	脳性麻痺；その他脳性麻痺についてまとめ
11	重症心身障害児の理解と作業療法
12	知的障害児の理解と作業療法
13	発達障害児（自閉症スペクトラム児・ADHD児・LD児）への理解と作業療法
14	筋ジストロフィーのタイプと特徴、症状について・デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する作業療法
15	二分脊椎について・二分脊椎に対する作業療法

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
			○	OT学科							
授業科目名	臨床課題演習Ⅰ（身体障害分野）			担当者名	堀川 和馬						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		
授業概要	<p>身体障害の疾患から考えられる症状や特徴の理解を深める。また、身体の症例データを参考に、対象者に対し、一連の作業療法過程（情報収集・予後予測・評価計画・評価・作業療法目標立案・作業療法プログラム立案など）を経験する。その中で対象者の全体像の文章化やICFの枠組みで、系統立てながら対象者について概説できる力を身につける。</p>										
成績評価	課題レポート、発表、学習に取り組む姿勢を総合的に判断し評価する。										
その他	堀川 和馬（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	適宜提示します		
参考図書			

回数	授業計画
1	臨床課題演習の学習の進め方についてのオリエンテーション 提示された症例（整形疾患）の情報を理解する
2	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する
3	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる（1）
4	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる（2）
5	画像所見から予測される症状や手術適応、リスク管理について列挙する
6	疾患情報をもとに全般的・一般的に必要な評価項目を列挙する（ボトムアップ方式）
7	列挙した評価項目と実施上の注意点などを記録用紙②を作成する
8	情報収集の結果から生活行為を妨げていると予測される項目の列挙とその要因を考える
9	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する
10	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする
11	作業療法目標（最終、長期、短期目標）を設定し、記録用紙③に記入する
12	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する（1）
13	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する（2）
14	記録用紙①～③に整合性をもって記録する
15	全体のまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
			○	OT学科							
授業科目名	臨床課題演習Ⅰ（身体障害分野）			担当者名	堀川 和馬						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		
授業概要	<p>身体障害の疾患から考えられる症状や特徴の理解を深める。また、身体の症例データを参考に、対象者に対し、一連の作業療法過程（情報収集・予後予測・評価計画・評価・作業療法目標立案・作業療法プログラム立案など）を経験する。その中で対象者の全体像の文章化やICFの枠組みで、系統立てながら対象者について概説できる力を身につける。</p>										
成績評価	課題レポート、発表、学習に取り組む姿勢を総合的に判断し評価する。										
その他	堀川 和馬（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	適宜提示します		
参考図書			

回数	授 業 計 画
16	提示された症例（脳血管疾患）の情報を理解する
17	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する
18	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる（1）
19	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる（2）
20	情報収集の結果から生活行為を妨げていると予測される項目の列挙とその要因を考える
21	仮説より評価項目を列挙し、記録用紙②を作成する
22	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する
23	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする
24	作業療法目標（最終、長期、短期目標）を設定し、記録用紙③に記入する
25	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する（1）
26	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する（2）
27	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する（1）
28	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する（2）
29	記録用紙①～③に整合性をもって記録する
30	全体のまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
			○	OT学科							
授業科目名	臨床課題演習Ⅱ（精神障害分野）			担当者名	矢ヶ部 華世子						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	精神障害の疾患から考えられる症状や特徴の理解を深める。また、精神の症例データを参考に、対象者に対し、一連の作業療法過程（情報収集・予後予測・評価計画・評価・作業療法目標立案・作業療法プログラム立案など）を経験する。その中で対象者の全体像の文章化やICFの枠組みで、系統立てながら対象者について概説できる力を身につける。										
成績評価	課題レポート、発表、学習に取り組む姿勢を総合的に判断し評価する。										
その他	矢ヶ部 華世子（病院作業療法室において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	①ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版 ②精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	①監修 長崎重信 ②朝田 隆他	①メジカルビュー社 ②中央法規
参考図書	精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで	香山 明美他	医歯薬出版

回数	授業計画
1	提示された症例（統合失調症）の情報を理解する
2	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する
3	情報項目の共有、情報提供後に情報収集の結果を記録用紙①にまとめる
4	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる 情報収集の結果から生活行為を妨げていると予測される項目の列挙とその要因を考える
5	情報収集の結果から生活行為を妨げていると予測される項目の列挙とその要因を考える
6	仮説より評価項目を列挙する
7	評価項目の列挙を共有する 評価結果から得られた情報を記録用紙②にまとめる
8	問題点・利点の整理しICFに分類をする
9	ICFの分類を共有し、記録用紙③にまとめる
10	全体像をまとめ（統合と解釈）記録用紙③に記載する
11	全体像をまとめ（統合と解釈）記録用紙③に記載する
12	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記載する
13	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する
14	記録用紙1～3に整合性をもって記録する
15	全体のまとめ（発表）

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			OT学科					
授業科目名	作業療法総合演習Ⅰ（基礎医学）					担当者名	峯崎 佳世子、堀川 和馬、 矢ヶ部 華世子、川原 潤基、 出水 一美、杉本 互				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	これまでに学習してきた知識（基礎医学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
成績評価	課題の内容、学習への取り組み、試験などによって総合的に評価する。										
その他	峯崎 佳世子、堀川 和馬、矢ヶ部 華世子、川原 潤基、出水 一美、杉本 互（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	クエスチョンバンク2024	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA
参考図書			

回数	授業計画
1	国試対策オリエンテーション
2	神経基礎、感覚
3	神経基礎、感覚
4	脊髄神経、脊損・脊椎疾患
5	脊髄神経、脊損・脊椎疾患
6	脳神経・自律神経・反射
7	脳神経・自律神経・反射
8	脳解剖
9	脳解剖
10	脳卒中
11	脳卒中
12	高次脳機能障害
13	高次脳機能障害
14	パーキンソン病・脊髄小脳変性症
15	パーキンソン病・脊髄小脳変性症

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科						
			○								
授業科目名	作業療法総合演習Ⅱ（臨床医学）				担当者名	峯崎 佳世子、堀川 和馬、 矢ヶ部 華世子、川原 潤基、 出水 一美、杉本 亙					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										60	
授業概要	これまでに学習してきた知識（臨床医学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
成績評価	課題の内容、学習への取り組み、試験などによって総合的に評価する。										
その他	峯崎 佳世子、堀川 和馬、矢ヶ部 華世子、川原 潤基、出水 一美、杉本 亙（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	クエスチョンバンク2024	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA
参考図書			

回数	授業計画
1	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症・ギランバレー症候群
2	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症・ギランバレー症候群
3	筋ジストロフィー・重症筋無力症
4	筋ジストロフィー・重症筋無力症
5	骨・関節・靭帯・筋
6	骨・関節・靭帯・筋
7	上下肢運動学
8	上下肢運動学
9	末梢神経障害・装具
10	末梢神経障害・装具
11	骨折
12	骨折
13	関節リウマチ
14	関節リウマチ
15	義肢

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			OT学科					
授業科目名	作業療法総合演習Ⅱ（臨床医学）					担当者名	峯崎 佳世子、堀川 和馬、 矢ヶ部 華世子、川原 潤基、 出水 一美、杉本 亙				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										60	
授業概要	これまで学習してきた知識（臨床医学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
成績評価	課題の内容、学習への取り組み、試験などによって総合的に評価する。										
その他	峯崎 佳世子、堀川 和馬、矢ヶ部 華世子、川原 潤基、出水 一美、杉本 亙（実務経験なし）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	クエスチョンバンク2024	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA
参考図書			

回数	授業計画
16	義肢
17	姿勢・歩行・熱傷・その他整形
18	姿勢・歩行・熱傷・その他整形
19	統合失調症
20	統合失調症
21	統合失調症
22	気分障害
23	気分障害
24	神経症
25	神経症
26	パーソナリティ障害
27	パーソナリティ障害
28	摂食障害・依存症
29	摂食障害・依存症
30	てんかん・総論・評価



科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			OT学科					
授業科目名	作業療法総合演習Ⅲ（作業療法専門）					担当者名	峯崎 佳世子、堀川 和馬、 矢ヶ部 華世子、川原 潤基、 出水 一美、杉本 互				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										60	
授業概要	<p>これまでに学習してきた知識（臨床医学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。</p>										
成績評価	課題の内容、学習への取り組み、試験などによって総合的に評価する。										
その他	峯崎 佳世子、堀川 和馬、矢ヶ部 華世子、川原 潤基、出水 一美、杉本 互 (病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	クエスチョンバンク2024	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA
参考図書			

回数	授業計画
1	てんかん・総論・評価
2	認知症
3	認知症
4	小児期・ADHD・自閉症・広汎性発達障害
5	小児期・ADHD・自閉症・広汎性発達障害
6	臨床心理
7	臨床心理
8	臨床心理
9	臨床心理
10	呼吸
11	呼吸
12	呼吸
13	呼吸
14	循環
15	循環

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		九州医療スポーツ専門学校						
			○		OT学科						
授業科目名	作業療法総合演習Ⅲ（作業療法専門）				担当者名	峯崎 佳世子、堀川 和馬、 矢ヶ部 華世子、川原 潤基、 出水 一美、杉本 亙					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										60	
授業概要	これまでに学習してきた知識（臨床医学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
成績評価	課題の内容、学習への取り組み、試験などによって総合的に評価する。										
その他	峯崎 佳世子、堀川 和馬、矢ヶ部 華世子、川原 潤基、出水 一美、杉本 亙 (病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務)										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	クエスチョンバンク2024	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA
参考図書			

回数	授業計画
16	循環
17	循環
18	消化器（肝・胆・膵）
19	消化器（肝・胆・膵）
20	代謝・泌尿器・内分泌
21	代謝・泌尿器・内分泌
22	血液・免疫・悪性腫瘍
23	血液・免疫・悪性腫瘍
24	ROM
25	ROM
26	MMT
27	MMT
28	正常発達
29	正常発達
30	脳性麻痺・ダウン症・二分脊椎

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科							
			○								
授業科目名	地域作業療法学 I					担当者名		川原 潤基			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	地域包括ケアシステムの推進が進められていく中、地域リハビリテーションの重要性は増えています。それを取り巻く法制度（介護保険制度・障害者総合福祉法・医療保険制度）も踏まえて、その知識と地域の中で作業療法士が担う役割を学習していきます。また、地域作業療法を実施する中で用いる自助具について、学習・考案・作製します。										
成績評価	課題及び期末試験にて総合的に評価する。										
その他	川原 潤基（病院リハビリテーション科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準作業療法学 地域作業療法学(第4版)	大熊 明 編	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	オリエンテーション、地域作業療法とは：地域作業療法の概念、共有すべき重要概念、これからの地域作業療法
2	地域作業療法を支える制度：地域包括ケアシステム・精神保健福祉法等
3	地域作業療法の実践：支援プログラムとマネジメントを学ぶ
4	地域作業療法の実践：地域作業療法の実践の場を知る（通所介護施設/通所リハビリテーション/訪問作業療法）
5	地域作業療法の実践：地域作業療法の実践の場を知る（発達支援/特別支援教育）
6	地域作業療法の実践：地域作業療法の実践の場を知る（精神領域の地域作業療法）
7	地域作業療法の実践：地域作業療法の実践の場を知る（就労支援における作業療法）
8	地域作業療法の実践：自助具の考案と作製
9	地域作業療法の実践：自助具の考案と作製
10	地域作業療法の実践：自助具の適応
11	地域作業療法の実践事例
12	地域作業療法の実践事例
13	在宅生活における福祉用具の活用 <実習：福祉用具プラザ北九州での福祉用具使用体験> レポート課題
14	在宅生活における福祉用具の活用 <実習：福祉用具プラザ北九州での福祉用具使用体験> レポート課題
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

九州医療スポーツ専門学校  
OT学科

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野						
	○										
授業科目名	地域作業療法学Ⅱ（福祉用具学を含む）					担当者名	杉本 亙				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	福祉用具適用及び住宅改修等を手段とする住環境整備や地域リハビリテーションとそれを取り巻く法制度（介護保険制度・障害者総合福祉法・医療保険制度）も踏まえ、作業療法士が担う役割を学習していきます。										
成績評価	課題や小テスト、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	杉本 亙（病院作業療法科において作業療法士として勤務）										

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	適宜プリント配布		
参考図書	適宜プリント配布		

回数	授業計画
1	オリエンテーション
2	福祉用具総論・福祉用具の運用 福祉用具の制度・法律や関連する様々な用語を理解する
3	福祉用具と作業療法士の役割 ICFアセスメントや供給システムについて理解する
4	福祉用具適応論・リスクマネジメント 福祉用具の選定や適合、安全性について理解する
5	福祉用具給付の制度・法律について 障害者総合支援法や介護保険法とその他の方法について理解する
6	福祉用具の適応（症例含む）について理解する
7	福祉用具の適応（症例含む）について理解する
8	障害別にみた福祉住環境整備について理解する
9	障害別にみた福祉住環境整備について理解する
10	障害別にみた福祉住環境整備について理解する
11	福祉住環境整備の実際について知る
12	福祉住環境整備の実際について知る
13	在宅生活における福祉用具の活用について知る
14	在宅生活における福祉用具の活用について知る
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
					○							
授業科目名	見学臨床実習 I					担当者名		出水 一美				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						90						
授業概要	医療機関や地域分野での見学実習を通して、医療や社会の中における作業療法の役割と責任を学ぶことを目的とする。 また、見学における必要な規則や心得、時間を守る、服装や身だしなみに配慮するなど医療専門職として責任ある態度、行動が取れることを目的とする。											
成績評価	評価の基準：見学臨床実習に必要な資質や知識、マナーを身につける。 評価の方法：実習態度、課題レポートを総合的に判断する。											
その他	出水 一美（病院作業療法室にて作業療法士として勤務）											

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書			
参考図書			

実習目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健・医療・福祉領域における作業療法士の役割と責任について理解する。</li> <li>臨床実習を通して、作業療法士を目指すものとしての自覚を高め、適した行動を学ぶ。</li> <li>臨床教育者の指導の下、対象者に対する作業療法の実践を見学し、作業療法の基礎を学ぶ。</li> <li>臨床現場で学んだことを通して、職場イメージをもつことで専門教科への学習意欲向上に繋げていく。</li> </ul>
実習目標	<p>1) 情意面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療人として相応しい身だしなみを整えることができる。</li> <li>対象者および施設スタッフに対し、挨拶、言葉遣いなどが適切にできる。</li> <li>対象者に対し、傾聴及び共感的な態度で関わることができる。</li> <li>日々の課題を期限内に提出できる。</li> <li>探求心や向上心を持ち、積極的な行動がとれる。</li> </ul> <p>2) 認知面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士の役割を理解できる。</li> <li>疾患の症状、現象について理解することができる。</li> <li>疾患に対する評価、治療について理解することができる。</li> <li>情報収集、観察、面接の結果や指導者の助言から対象者の生活状況について理解できる。</li> <li>対象者の活動、参加の状況と心身機能、身体構造との関係性について説明できる。</li> <li>自己の課題に気づき、改善に向けて具体的対策について説明できる。</li> </ul> <p>3) 精神運動面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面接などにより対象者の主訴や必要な情報を収集できる。</li> <li>診療記録（カルテ）などより対象者に必要な情報を収集し、整理することができる。</li> <li>他部門より必要な情報を収集することができる。</li> <li>対象者の活動場面を観察し、専門用語を用いて記述できる。</li> <li>対象者について知り得た情報の重要性や守秘義務を理解し、遵守できる。</li> </ul>
実習内容	<p>医療機関や地域分野での実習（90時間） 教員や臨床教育者を通し、作業療法の役割や責任を学び、基本的態度が取れることを目標とする。</p> <p>実施内容： 具体的な実習内容・方法は授業計画、実習要項参照。</p>

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校					
			○			OT学科					
授業科目名	見学臨床実習Ⅱ					担当者名		出水 一美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										45	
授業概要	<p>通所及び訪問リハビリテーションでの見学実習を通して、医療や社会の中における作業療法の役割と責任を学ぶことを目的とする。  また、見学における必要な規則や心得、時間を守る、服装や身だしなみに配慮するなど医療専門職として責任ある態度、行動が取れることを目的とする。</p>										
成績評価	<p>評価の基準：見学臨床実習に必要な情報収集や資質、知識、マナーなど  評価の方法：情報収集のまとめや実習態度、課題レポートを総合的に判断</p>										
その他	矢ヶ部 華世子（病院作業療法室において作業療法士として勤務）										

実習目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムを理解し、対象者に対する施設やサービスの役割を理解する。</li> <li>・地域包括ケアシステムにおける作業療法や作業療法士、また他職種の役割を理解する。</li> <li>・社会人、また医療人として自覚を高め、「報告・連絡・相談」など適切な行動をとることができる。</li> </ul>
実習目標	<p>1) 情意面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療人として相応しい身だしなみを整えることができる。</li> <li>・対象者および施設職員に対し、挨拶、言葉遣いなどが適切にできる。</li> <li>・対象者に対し、傾聴及び共感的な態度で関わることができ、良好な関係を構築・維持できる。</li> <li>・課題などの提出物を期限内に提出することができる。</li> <li>・他職種と関わり、良好な関係を構築できる。</li> <li>・探求心や向上心を持ち、積極的な行動がとれる。</li> <li>・自己の利点また課題に気づき、自己課題に対し具体的対策について説明できる。</li> </ul> <p>2) 認知面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険法及び地域包括ケアシステムについて理解できる。</li> <li>・地域サービスでの作業療法、また作業療法士の役割を説明できる。</li> <li>・地域サービスにおける他職種の役割を説明できる。</li> <li>・対象者の疾患、症状について理解できる。</li> <li>・対象者への、面接、観察、他の情報や指導者からの助言から、対象者の生活状況について理解できる。</li> </ul> <p>3) 精神運動面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者やご家族、施設について知り得た情報の重要性や守秘義務を理解し、遵守できる。</li> <li>・実習指導者のもと、面接より対象者の主訴や必要な情報を収集できる。</li> <li>・実習指導者のもと、診療記録などより対象者に関する情報を収集し、整理して記載することができる。</li> <li>・実習指導者のもと、観察上から対象者の生活行為について理解することができる。</li> <li>・実習指導者のもと、対象者に関わるご家族や他職種などより対象者に関する情報を収集し、整理して記載することができる。</li> </ul>
実習内容	<p>医療機関や地域分野での実習（学外40時間 学内5時間）  教員や臨床教育者を通し、作業療法の役割や責任を学び、基本的態度が取れることを目標とする。</p> <p>実施内容：  具体的な実習内容・方法は授業計画、実習要項参照。</p>

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野			九州医療スポーツ専門学校 OT学科					
			○								
授業科目名	基礎臨床実習					担当者名		出水 一美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				4	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									180		
授業概要	2年次までに学んだ作業療法の検査を適切に実施でき、その結果の解釈を中心に、実習指導者の指導を仰ぎながら実際の患者にそれを応用し、実際の知識技術として体得する。また、検査測定技術のみにとられすぎることではなく、評価を通して、全体としての患者像を理解できるようにする。										
成績評価	評価の基準：臨床実習に必要な資質や知識、マナー等 評価の方法：臨床実習指導者の評価（臨床経験報告書、臨床経験チェックシートの内容）及び欠席状況や実習終了後の報告書作成、発表の内容で総合的に判断する。										
その他	川原 潤基（病院作業療法室にて作業療法士として勤務）										

実習目的	臨床教育者の指導のもとに、作業療法対象者の全体像を把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技能及び態度を身につけ、保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療人としての心構えや態度を習得する。</li> <li>2) リハビリテーションにおける作業療法士の役割と責任を理解する。</li> <li>3) 「作業療法評価」を中心として、学校の講義で修得した知識と技術について臨床実習を通して経験し、実践力を養う。</li> <li>4) 将来、作業療法士として対象者と関わっていく上での基礎である作業療法評価、問題点・利点の抽出を指導のもと行うことができる。また作業療法目標および作業療法プログラムの立案、考察までの一連の臨床思考過程を見学、経験する。</li> </ol>
実習内容	<p>実習時間（学外160時間 学内20時間） 具体的な実習内容、方法は実習要項参照</p>

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野		九州医療スポーツ専門学校 OT学科						
			○								
授業科目名	総合臨床実習				担当者名	出水 一美					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				18	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										810	
授業概要	作業療法についての知識・技能の学習の総決算として、実習指導者の指導のもとにこれらを活用し、評価・治療計画・治療・効果判定という一連の作業療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項について自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。										
成績評価	評価の基準：臨床実習に必要な資質や知識、マナー等 評価の方法：臨床実習指導者の評価（臨床経験報告書、臨床経験チェックシートの内容）及び欠席状況や実習終了後の報告書作成、発表の内容で総合的に判断する。										
その他	矢ヶ部 華世子（病院作業療法室において作業療法士として勤務）										

実習目的	臨床教育者の指導のもとに、作業療法対象者の全体像を把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技能及び態度を身につけ、保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 作業療法士としての心構え、態度を習得する。</li> <li>2) チーム医療における作業療法士の役割と責任を理解する。</li> <li>3) 「作業療法評価と治療・介入」を中心に、学内の講義で修得した知識と技術を臨床の場で実践する。</li> <li>4) 将来、作業療法士として対象者と関わっていく上で必要な事柄、作業療法評価、問題点・利点の抽出、作業療法目標および作業療法プログラムの立案、考察までの一連の臨床思考過程について指導者の指導のもとでできる。</li> </ol>
実習内容	実習時間（学外720時間 学内90時間） 具体的な実習内容、方法は臨床実習の概要参照